

在リテハ法文ノ指示スル如ク見積リ價格ニ過キス見積リ價格ニ於テ二百圓トスルモ實際ニ於テ或ハ之ニ及ハサルコアルヘシ或ハ之ニ超過スルコアルヘシ要スルニ見積リ價格ハ眞ノ價值ニアラス故ニ云ハ、限度ノアラサルモノトス法律ハ見積リ價格眞ノ賣買價格ニ超過スルモ通常五百圓ノ上ニ出テサルモノト見做シテ斯ク定メタルモノナラン乎

又動産ノ賣拂トアルヲ以テ不動産ノ賣拂ニ就キテハ價格ノ多少ニ拘ラス隨意ノ約束ヲ爲スコトヲ得サルハ明瞭ナリ蓋シ不動産ノ處分ハ總テ管理所爲ニ屬セサルヲ法律ノ原則ト爲ス理由ニ基クモノナラン乎

第九ノ場合○軍艦ハ雷ニ他ノ兵器ニ於ケルカ如ク軍用ニ供スル具タルノミナラス常ニ軍兵ヲ載セテ海上ニ運轉スル城砦ナリ彈丸糧食餘リアリ兵士一以テ千ニ當ルノ力アリト雖モ軍艦ノ構造

堅牢ナラサルハ豈海上攻撃防禦ノ術ヲ全フスルコトヲ得ンヤ軍艦ノ構造ハ其材其製及其技ヲ撰ハサルヘカラス價ヲ定ムルニ汲々タルヲ要セス是レ此例外アル所以ナリ

第十ノ場合○此場合モ前段ノ場合ニ比シ物ニ大小ノ差アリト雖モ其理由ハ一ナリ價ノ廉ナルヲ好トシ劣馬ヲ以テ軍用ニ供スヘキニアラス必ス其性格産地等ヲ撰ハサルヘカラサルナリ

第十一ノ場合○此場合モ亦第一第四第五ノ場合ニ粗同シキヲ以テ別ニ説明ヲ要セサルナリ

第十二ノ場合○此合場ハ勞働生産又ハ製造ノ性質上特別ノ理由アルニ基カス慈惠ノ目的ヲ達スルノ理由ニ基クモノニシテ別ニ説明ヲ要セサルナリ

第十三ノ場合○此場合ニ於ケル勞働賃及生産物并製造物ノ價值ハ行政上殆ト一定シ其中或ハ一定セサルモノアリトモ其不定

メ方ニ成規アルヘキヲ以テ低廉ナルモ高價ノ憂ナシ然ルキハ競
争ヲ要セサルナリ

第十四ノ場合○此場合ニ於ケル生産製造物ハ行政上定價ヲ付シ
之ヲ私ニ高低スルヲ許サス所謂正札付ノ賣拂品ナルヲ以テ競
争ヲ要セサルヲ知ルヘキナリ

第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物 件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得

工事製造又物件買入レノ爲メ前金拂ヲ爲スヲ禁スルモノハ國
庫其支出ヲ惜ムニアラス工事製造及物件ノ果シテ注文通りニ運
ブヤ否ヤ其事物ニ就キ調査セサレハ豫メ確保スルヲ能ハス全ク
將來ノ危險ヲ避クルニ由ルモノトス故ニ其危險アラサルモノト
信スルニ足ルヘキ場合ニ於テハ前金拂ヲ許可スルモ敢テ差支ア
ラサルモノ、如シ即チ如何ナル場合ニ於テ其危險アラサルモノ

トシ又如何ナル場合ニ其危險ヲ免レサルモノト決定スヘキヤハ
立法ノ問題トス

本條ニ據ルニ軍艦兵器彈藥ハ前金拂ヲ爲スヲ得ルモノトシ其
他ノ工事製造又ハ物件ノ買入レハ之ヲ許サルモノト爲セリ蓋
シ軍艦兵器彈藥ノ買入レハ其代價ヲ前金拂ニ爲スモ前陳ノ危險
アラサルモノト立法上見做シタルモノナランカ實際ニ於テモ亦
然ラン何トナレハ軍艦兵器彈藥ヲ製造スルハ概シテ政府ノ特有
ニ屬シ或ハ私社ノ専有ニ屬スル所ト雖モ政府ノ監督下ニ在ル
疑ヲ容レヌ是ヲ以テ將來ノ擔保充分備ハルモノナレハナリ之ニ
反シテ其他ノ工事製造及物件ノ買入レハ政府ノ監督外ニ立ッ各
人又ハ會社ニ就キ之ヲ契約スルモノ多シ或ハ其履行ノ正シカラ
サルヲ或ハ其破産スルニ至ルヲナキヲ保タズ即チ將來ノ危險ヲ
免レサル場合トス豈斯ノ如キ危險アルニ拘ラス前金拂ヲ爲ス

ヲ得ンヤ是レ本條ノ規定アル所以ナリ
 其レ然リ然リト雖モ或ル會社ニシテ其定款ヲ以テ何人ト取引ヲ
 爲スニ拘ラス多少ノ前金ヲ受クルニアラサレハ其取引ヲ約束セ
 スト確定シタルモノ内外ニナキニアラサルヘシ此場合ニ於テ政
 府其社ニ就キ事物ノ約束ヲ望ムニ方リ強テ其定款ヲ破ラシムル
 ノ權利ヲ有セサルヘシ止ムコトヲ得サレハ其約束ヲ爲サ、ルノ外
 ナシ然レモ之ヲ爲サ、レハ政府ノ需用ヲ足スコト能ハス其需用ヲ
 足サント欲スレハ本條ノ禁制ニ背馳セサルヲ得サルニ至ルヘシ
 一國ノ法律ハ之ヲ私ニ破フルコトヲ得ヘキモノニアラス之ヲ如何
 ニシテ可ナラシヤ蓋シ本法中或ハ此場合ヲ處理スルコトヲ得ルノ
 方法存スヘキモノト思考スト雖モ予未ク之ヲ發見セス或ハ第三
 十條ノ法文ニ基クモノナラン乎然リト雖モ同條ハ一種特別ノ事
 項ヲ規定シタルモノ、如シ只茲ニ予ノ疑問ヲ載セテ大方ノ教示

ヲ待ツモノナリ

第九章 出納官吏

第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌
 ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ
 負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

總テ他者ノ財産ヲ管理スル者ハ其保存其出納ニ就キ責ニ任スヘ
 キハ條理ノ當然ニシテ法文ヲ待チテ後知ルヘキニアラス然レモ
 其責任ニ輕重ノ差ナキ能ハス假設ハ他人ノ委託ヲ受ケテ德義上
 財産ヲ管理スル者ノ如キハ自己特有ノ財産ニ及ホス注意ヲ加フ
 ル以上ハ其責任ヲ盡シタルモノト云フヲ得ヘシト雖モ幾分ノ報
 酬ヲ受ケテ其管理ヲ爲ス者ノ如キハ當ニ自己ノ財産ニ加フル注
 意ヲ以テ其財産ヲ取扱フノミナラス尙ホ一層ノ注意ヲ加ヘサレ
 ハ以テ其責任ヲ盡シタルモノト謂フヲ得ス是ニ於テカ民法上報

酬ヲ受ケテ他人ノ財産ヲ管理スル者ト其報酬ナク徳義ヲ以テ他人ノ財産ヲ管理スルモノト責任輕重ノ度ヲ異ニスル所以ナリ政府ノ現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ル官吏ハ報酬ヲ受ケテ管理ニ任スル者ノ部類ニ屬ス故ニ其責任最モ重シ是レ本條ニ一切ノ責任ヲ負ヒト特書シテ宥恕スル所アラサル趣意ヲ指示シタルモノトス然レモ其責任ヲ盡シタルヤ否ヤハ正當ニ判定スルヲ要ス而シテ之ヲ司法ノ裁判ニ委テシテ憲法第七十二條ニ於テ説明シタル如ク會計ノ事務ハ一種ノ専門ニ屬シ普通ノ法律ニ通スルモ其當否ヲ知ルハ容易ナラス殊ニ普通裁判權ニシテ直ニ會計事務ニ立入ルルハ行政權ヲ侵スノ嫌アリ即チ會計検査院ヲ設ケ會計ノ當否ハ總テ同院ノ判定ニ委ヌルモノハ右二箇ノ理由ニ基クモノトス

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損

シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラザリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス總テ法律上必要ト認ムルニ於テハ人ニ負ハシムルニ如何ナル義務如何ナル責任ヲ以テスルモ可ナリ然レモ其義務其責任ハ人力ノ及フ所ヲ以テ範圍トセサルヘカラス若シ法律ノ命スル所其範圍ノ外ニ出ツルモ其法律ハ必ス實際ニ行ハレサルナリ他ナシ法律ハ要スルニ人爲ヲ支配スルニ止マリテ人爲外ニ法律ノ力及ハサルモノナレハナリ出納官吏ノ責任モ亦然リ其不注意ハ責ムヘシ其懈怠ハ咎ムヘシ其惡意所爲ハ罰スヘシ之ニ於テ毫モ忌憚ナキヲ要ス然ラサレハ會計ノ信ヲ公衆ニ博スルニ足ラス然リト雖モ人力ノ及ハサル事故ニ基ク紛失毀損ハ其責任ニ歸スルヲ得ス他ナシ其人ノ不注意懈怠若クハ惡意ニ基カサル所ニ責任ノ存

スヘキ理由ハ曾テアラサレハナリ
 然リト雖モ其出納上ニ紛失毀損ノ生シテ之ヲ掌ルノ官吏ニシテ
 其紛失毀損ヲ與リ知ラス其責任ナキモノト主張スルハ非常ノ事
 ニシテ普通ノ推測ハ其責ニ任セシムルニ在リ故ニ其免責ヲ得ン
 ト主張スル官吏ヨリ非常ノ事ヲ證明セサルヘカラス其證明ヲ爲
 シ得サルニ於テハ固ヨリ其責ニ任スヘキハ勿論トス是レ其保管
 上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ證明シ以テ免責ノ判決ヲ受クルニ
 非サレハ單ニ水火盜難又ハ其他ノ事故ニ由リ紛失毀損ヲ來タシ
 タルモノト主張スルモ其負擔ノ責ヲ免ル、トテ得サル所以ナリ

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保
 證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ
 之ヲ定ムヘシ

總テ法律ノ命スル責任ヲ盡サ、ル者ヲ罰スルニ其身體又ハ名譽

上ニ及ホス刑ヲ以テスルハ其人ヲ懲シ他ヲ戒ムルノ點ニ至リテ
 ハ法律ノ希望ヲ達スルコトヲ得ルモノ、如シト雖モ其財産上ニ及
 ホス刑ノ如キハ犯罪人ノ資力ナキ者ニ對シテハ殆ト無効ナリ加
 之責任若クハ犯罪ノ原因他者ノ財産ニ基ク場合ニ於テハ刑罰ノ
 効力ハ被害者ノ損害ヲ償フモノニアラス故ニ刑罰以テ犯者ヲ懲
 シ他ヲ戒ムルヲ得ルト雖モ被害者ノ損害ヲ償フノ途備ラサルモ
 ハ法律ノ保護未タ全キヲ得サルナリ出納官吏ノ責任ヲ嚴ニシ之
 ヲ懲シ之ヲ罰スルハ固ヨリ可ナリ然リト雖モ其レノミニシテ政
 府ノ現金又ハ物品一旦出テ、還ラサルモハ出納ノ擔保備ラサル
 モノト謂フヘシ犯者資力アレハ必ズ還ルヘシ資力ナキモハ之ヲ
 奈何シテ可ナランヤ豫メ其危險ニ備ヘサルモハ出納ノ完全ヲ保
 ツニ難カルヘシ是ニ於テ乎現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ル官吏ニ身
 元金ヲ豫納セシムルノ制度各國ニ行ハル我カ國未タ此制アラサ

ルモノ、如シト雖モ將來必ス行ハル、ニ至ルヘシ本條ハ則チ漸々此制ヲ採ルノ主義ニ基キ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトシタル所以ナリ

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

總テ國務ハ會計ノ事ノミナラス一切ノ事ニ關シテ理ト實トチ一手ニ歸スルハ策ノ得タルモノニアラス理ニ由リテ實ヲ取ルハ順ナリ實ニ由リテ理ヲ制スルハ逆ナリ而シテ實ト理トチ一手ニ歸スルハ其間ニ私シナシト雖モ概シテ實勝チテ理破ル、ノ結果チ生ス他ナシ實ハ他力ニ隨テ變シ理ハ無形ニシテ動カス是ヲ以テ實チ先ニスルハ情勢ノ然ラシムル所ナレハナリ此論理ハ出納ノ事ニ關シテ尤モ然リトス仕拂命令スルノ職務ハ理ナリ出納ヲ掌ルノ職務ハ實ナリ若シ此理ト實トチ一手ニ歸スルハ實ノ望

ム所ニ隨テ理ヲ制スルニ至ルノ危險少カラス是レ仕拂命令ノ職務ト現金出納ノ職務ト相兼ヌルヲ得スト規定シタル所以ナリ

第十章 雜則

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノ

アルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得
特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノトハ其場合ノ何タルチ明知スルチ得スト雖モ外國ニ出兵ヲ要スル等ノ場合ノ如キ其一例ナランカ兎ニ角特別會計ヲ設置スルハ容易ノ事ニアラス然リト雖モ之ヲ設置スルハ法律ヲ以テ定ムヘキモノト明記シタル以上ハ吾人臣民ノ憂フル所アラサルヘシ何トナレハ法律ハ必ス議會ノ協賛ニ成ル議會ノ協賛ニ成ル法律ハ政府ノ專行スル所ト異ナリ即チ吾人臣民ノ承諾ニ出ツルモノナルヲ以テ吾人臣民ハ其

須要ヲ信シテ可ナルモノナレハナリ

第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

日本銀行ハ其性質擔保ノ方法充分ニ備ハルモノニシテ殊ニ其總裁ハ天皇ノ勅任シ賜フ所ノ人ナリ之ヲシテ國庫金ヲ取扱ハシムルモ將來ノ危險アラサルヘシシテ金員利用ノ便アリ理財ノ方法宜キニ適スルモノト謂フヘシ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第十一章 附則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス
決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十三條 本法ノ條項ト抵觸スル法令ハ各其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

此二條ハ本法執行ノ期ト舊法令廢止ノ期トヲ示シタルモノニシテ別ニ説明ヲ要セズ蓋シ總テ新法ノ發行ハ舊法ノ足ラサル所若クハ時ニ合ハサル所ヲ増加變更スルヲ以テ目的トス故ニ彼是條項ノ抵觸ヲ免レス是ニ於テカ其舊ヲ廢シ新ヲ施クノ期日ヲ規定セサルヘカラス然ラサレハ其局ニ當ル者ヲシテ執務ノ標準ヲ失ハシムルヲ以テナリ

貴族院令講義

貴族院ノ組織ハ各國其原則ヲ同フセスト雖モ要スルニ我カ貴族院ノ組織ハ近來學理ノ望ム主義ニ適合スルモノナルコトハ既ニ憲法第三十三條第三十四條ニ於テ説明シタルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セサルナリ

憲法ニ繼キ議院法選舉法及會計法ハ法律ノ名稱ヲ付シテ之ヲ發布セラレタルニ特リ貴族院令ニ限リ勅令ノ名稱ヲ以テ之ヲ發布セラレタルハ如何ナル理由ニ基クヤ蓋シ其名稱異ナリト雖モ其實ニ於テハ彼は大差ナキモノ、如シ何トナレハ此貴族院令ニ限リ普通ノ勅令ノ法式ト異ナリ國務大臣總テノ副署ヲ以テセシメ猶ホ議院法選舉法及會計法ニ於ケルカ如ク然ルモノナレハナリ而シテ又是等ノ法令ハ憲法ノ實施上必要ノモノナルヲ以テ豫メ元老院ノ職ニ付シタルニアラス悉ク勅定ニ出ツ故ニ其立法上ノ

法式ヨリ見ルモ彼是相異ナルヲナシ法ト云ヒ令ト云ヒ其本皆一ナリ故ニ普通ノ法律ト勅令トノ區別ニ由リテ憲法附隨ノ法令ヲ論スヘキニアラス只其名稱ヲ異ニシタルノミトス

其レ然リ何ヲ以テ他ヲ法ト云ヒ之ヲ令ト云ヒシヤ蓋シ亦故アルヘシ何ソヤ曰ク本法ハ憲法及議院法ニ掲載シタル貴族院ノ組織及關係ヲ實施スルニ必要ナル命令ノ性質ヲ備フルニ由ルモノナルヘシト雖モ之ヲ勅令ト爲サ、ルヘカラサル一他ノ理由アルヘシ即チ他ナシ總テ法律ハ兩議院ノ協賛ヲ以テ成ルモノナリ若シ貴族院令ヲ法律ト爲スキハ現今ニ在リテハ大差ナシト雖モ議會建立ノ後ニ至リテハ其改正變更ヲ要スルノ都度兩院ノ協賛ヲ得サルヘカラス然ルモハ貴族院ノ組織ハ特ニ勅定ニ基クノ趣意ヲ害スルモノトス故ニ之ヲ勅令ノ部内ニ置キ法律ト爲サ、リシ理由ハ現今ニ存セスシテ將來ニ存スルモノト思考ス實ニ議會開設

ノ後ニ至リ貴族院ノ組織ニ衆議院ヲシテ干與セシムヘキニアラズ特リ勅定ニ委テサルヘカラサレハナリ

斯ク論シ來レハ人或ハ予ヲ難シテ曰ハン果シテ然ラハ貴族院ハ天皇ノ專ラ左右シ賜フヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス貴族院ノ基礎スノ如ク薄弱ニシテ豈君民ノ間ニ在リテ獨立不羈ノ權利ヲ維持スルヲ得ンヤト予之ニ答テ曰ハン貴族院成立ニ關スル大體ノ原則ハ本令中ニアラスシテ憲法ニ存ス本令ハ憲法ニ存スル大體ノ原則ヲ實施スルノ細則ノミ勅令ヲ以テ其細則ヲ改正變更スルカ爲メ大體ノ原則ヲ動スモノニアラス其原則動カサレハ獨立不羈ノ權利ヲ維持スルニ何ノ妨ケカアラシヤ予ハ或者ノ攻撃ヲ取ラサルナリ

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯爵

三 伯子男各其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者

四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任

セラレタル者

五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直

接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅

任セラレタル者

我カ帝國ノ臣民ハ悉ク憲法ノ趣意ヲ奉體シ立法權ニ參スルモ行政權ニ當ルモ司法權ニ任スルモ若クハ其三權ノ一ニ直接ニ干與セサルモ尊王愛國ノ心ヲ恒ニシ苟モ輕忽ノ振舞ヲ爲サ、ルヘキハ予ノ信シテ疑ハサル所ナリ然リト雖モ公私ノ利益相牴觸スルニ際シテ公利ノ爲メニ私利ヲ抛ツノ心ヲ有スヘキトハ普通人ニ望ムヘカラス其利益相牴觸スルニ際シテ私利ヲ先ニシ公利ヲ後

ニスルハ普通人ノ常ナリ而シテ法律ハ總テ非凡ノ人ノ爲メニ之ヲ設クルモノニアラス普通ノ人ヲ支配スルカ爲メナリ善良非凡ノ心ヲ以テ國家ノ將來ヲトスルヲ得ス故ニ今日ヨリ永ク憲法ヲ遵守セシムルノ基礎ヲ固クセサルヘカラス他ナシ其基礎ヲ固クスルハ即チ帝室ノ基礎ヲ固クスルモノナレハナリ之ヲ固クスルノ方法如何國家ニ重要ノ地位ヲ占メ或ハ國家ニ勳勞アリ或ハ學識經驗ニ富ミ或ハ國家ノ財源ヲ組成スル者ヲシテ憲法ノ保管者タラシムルニ在ルヘシ是レ貴族院ノ建設ヲ要スル所以ナリ蓋シ我カ憲法ニ於テハ貴族院ハ殊更ニ憲法ノ保管者タル旨ヲ明記セズ其有スル權利ハ衆議院ニ異ナルヲナシト雖モ該院ヲ組織スル議員ノ性質ヨリ考フルキハ勢ヒ憲法ノ保管者ヲ以テ任スルニ至ルヤ必セリ他ナシ憲法ハ勅定ニ成リテ貴族院議員ニシテ法律上當然其職ニ當ル者ハ皇族タリ華族タリ一ハ皇統ニシテ二ハ天皇

ノ最惠ニ浴スル人ナリ其他ノ議員ト雖モ皆勅任セラル、モノニシテ天皇ノ最モ信ヲ置カル、所ナレハナリ此議員ニシテ憲法ヲ保守スルヲ力メサレハ其名分ヲ知ラサルノ譏ヲ免レサルナリ是レヨリ本條ニ列記シタル議員タルヘキ人々ノ資格ニ就キ理由ノ存スル所ヲ左ニ畧記スヘシ

第一 皇族○予曾テ曰ク法律ハ國權ト民權トノ調和ニ成ラサルヘカラス故ニ立法權ハ一國主權ノ代表者ト其國民ノ代表者トヲ以テ組織シタル議會ヲシテ之ヲ預ラシメサルヘカラス貴族院ハ主權者ヲ代表シ衆議院ハ國民ヲ代表スト之ヲ代表セシムルニハ各其最モ信スル所ニ因ラサルヘカラス蓋シ我カ帝國臣民ハ悉ク天皇ノ信シ給フ所ナリ然リト雖モ其間自ラ厚薄ノ差ナキ能ハス皇族ハ最モ信ヲ置カル、所ナルヘクシテ情ニ於テモ亦然ラサルヲ得ス苟モ貴族院ハ天皇ノ最モ信ヲ置カル、所ノ人ヲ以テ組成

スヘキモノタル以上ハ皇族ヲ第一ニスヘキヲ當然トス是レ皇族ヲ以テ貴族院議員ノ第一ニ置キタル所以ナリ

第二 公侯○我カ帝國ニ在リテ公侯爵ノ貴族號ヲ有スル者ハ偶然ニアラス或ハ往古ヨリ世々相傳ヘテ我カ帝國ニ勳勞アリ或ハ現時ニ在リテ身自ラ帝室ニ偉勳アルニ由ルモノトス故ニ其家ニ立ツ者ニシテ祖ヲ辱メサルノ情アレハ帝室ヲ思フニ厚キヤ必セリ亦臣子ノ分トシテ其情ナカルヘカラス詩ニ云ク爾ノ祖ヲ念フナカラシヤ其德ヲ肆修セヨト其レ此之謂ヒナリ天皇ノ公侯ヲ信シテ法律上當然議員タラシムルモノハ斯ノ如ク信ヲ置クノ原由アルニ因ルモノトス公侯モ亦其信ニ背カサルヲ力メサルヘカラサルナリ

第三 伯子男○伯子男ニシテ議員タルノ理由ニ至リテハ公侯ニ同シ而シ伯子男ニ限リ皆當然ノ議員タラス同爵ノ選舉ニ依ルモ

ノト定メタルモノハ議員ノ人員多數ニ失スルノ弊害ニ基クニ過
キスシテ天皇ノ信ヲ置カル、ノ點ニ至リテハ公侯ト異ナルヲナ
シ他ナシ同爵ノ選舉ノミニ依リ勅許ヲ待タス當然其院ニ列スル
モノナレハナリ若シ天皇ノ信ヲ置カル、ニ彼是厚薄ノ差アルモ
ノトセハ豈同爵ノ選舉ニ放任シ給ハンヤ伯子男モ亦此信ニ背カ
サルヲ心ニ銘セサルヘカラスナルナリ

第四 學識又ハ勳勞ヲ以テ勅任セラル、者○心ヲ帝室ニ歸シ憲
法ノ原則ヲ維持スルノ念ニ最モ厚キ者ヲ以テ貴族院ヲ組成シテ
足ルモノトセハ前段ニ掲ケタル議員ノ外他ノ人員ヲ入レサルモ
可ナリ然リト雖モ識力經驗ニ富ムノ元素ヲ加ヘサルモ或ハ事
ヲ誤解スルノ危險ナシトセス固ヨリ皇族華族ハ其識力經驗ニ乏
シト云フニアラス只身自ラ國事ニ當リ功ヲ奏シ勳ヲ建テ以テ經
驗ニ富ミ或ハ幼ヨリ心ヲ學識ニ專ニシ博識多才ヲ以テ名アル人

ニ比スレハ自然其間ニ差ナキ能ハス帝室ヲ思フニ最モ厚キノ念
ヲ助クルニ此經驗此才識ヲ以テセハ憲法ノ基礎愈固キニ至リテ
帝室ノ尊榮愈無窮ニ傳フルヲ得ヘキナリ

第五 各府縣下ノ最高納稅者中勅任セラル、者○帝室ハ尊奉セ
サルヘカラス憲法ハ遵守セサルヘカラス是レ我カ帝國臣民ノ分
ナリ然リト雖モ帝室ノ尊キ憲法ノ重キヲ名トシ之ヲ保管スルノ
任ニ當ル者ハ特リ皇族華族及勳勞識力者ニ限ルモノト爲スルハ
自然其保管ノ任ハ普通人民ノ分有セサル一種特別ノ權利ヲ組成
スルモノ、如キ思ヒテ生スルノ危險ナシトセス我カ帝國ハ帝室
ト國民トヲ以テ一體ヲ爲ス帝室ノ尊キ憲法ノ重キハ人民モ亦普
ク之ヲ知ラサルヘカラス之ヲ知ラシメント欲セハ普通人民ノ元
素モ亦均シク貴族院ニ入レサルヘカラス而シテ普通人民ハ既ニ
衆議院ヲ組成ス然ルニ之ヲ貴族院ニ入ル、ノ必要アルヲ名トシ

數多ノ普通人民ヲ同院ニ列セシムルハ是レ帝國ニ二衆議院ヲ
 組成スルニ類ス其列スヘキ人員ハ之ヲ限ラサルヘカラス之ヲ限
 ルノ方法ハ一地方ニ於ケル最高納稅者中ニテ選舉セシメ以テ天
 皇ノ信認シ給フ所ニ依リ勅任スルノ外ナシ他ナシ其選舉ニ依リ
 テ被選者ノ資望ヲトスルニ足リ其資望アルモノニシテ貴族院ニ
 列スレハ上意下達ノ任ヲ全フスルヲ得テ臣民調和ノ術ニ適ス
 レハナリ加之最高納稅者ハ帝國ノ財源ニ最モ關係ヲ有シ帝室ヲ
 思フノ念ヲ助クルニ學識經驗ヲ以テシ加フルニ國費ニ顧ル所ア
 ルノ元素ヲ以テスレハ茲ニ以テ貴族院ノ貴族院タル名實全キヲ
 得ヘキナリ

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列 ス

衆議院議員及貴族院議員ト雖モ勅任セラル、モノハ皆年齡滿三

十歳以上タルヲ要ス又華族ヨリ貴族院議員タル者ハ滿二十五歳
 以上タルヲ要ス特リ皇族ニ限リ滿二十歳ニシテ議席ニ列セラル
 、モノト定メタルハ皇族ハ其年齡ニ達シテ才能智識他者ニ秀ツ
 ト見做シタルニアラス亦國體構成ノ必要ニ基クモノトス皇室典
 範第十三條ニ於テ天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年ト
 ストアルモノモ皆此理由ニ基クナリ而シテ國體ノ構成上何ヲ以
 テ皇族二十歳ニ達スレハ議席ニ列スヘキモノト云フヤ曰ク他ナ
 シ若シ皇族ニシテ滿二十五歳若クハ三十歳以上ニ達セサレハ議
 席ニ列セサルモノト爲スキハ其年齡ノ皇族ヲ議院ニ有スルヲ僅
 少ナルニ至ルヘシ皇族ハ特リ議員タルノミナラス陸海軍ノ樞要
 ナル位置ニ列セラレ或ハ海外ニ渡リテ學術ヲ修メ或ハ國情視察
 ニ意ヲ用サラルヘキヲ以テ自然議席ニ列セラル、ノ御方ハ少キ
 ニ失シテ其名アリテ其實ナキノ恐レアレハナリ加之一日モ早ク

國事ニ熟練シ給フヲ望マサルヘカラサルノ理由モ亦其一ニ居ルモノトス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歲ニ達シタルト

キハ議員タルヘシ

本條モ亦前條ト稍其理由ヲ同フスルモノトス蓋シ公侯爵ヲ有スル者ハ普通人ヨリ五ヶ年早ク才識熟達スルモノト見做シタルニアラス然レモ是等ノ人ハ他事ヲ措キ早ク國家ノ要路ニ當リテ國ニ盡ステ第一ノ義務トスヘキ人ナリ是等ノ人ヲシテ早ク議席ニ列セシムルモノハ施政ノ術ニ早ク鍊磨セシメンコトヲ希望スル我カ帝國構成ノ必要ニ基クモノト謂ハサルヘカラサルナリ尙ホ次條ニ於テモ年齡ノ點ニ就キ之ト同一ノ規定アルハ皆此理由ニ基クモノト知ルヘシ而シテ是レ決シテ異シムニ足ラス予ノ屢論スルカ如ク社會構成ノ問題ハ純理ヲ以テ分拆スルヲ得ス各國皆其

制ヲ異ニシ其純理ハ人智ノ未タ發見セサル所ニシテ要スルニ其邦土ニ隨ヒ斯々ノ制ヲ取ルハ國安ニ利アリト認ムル所ノモノハ即チ其邦土ノ爲メニ必要ノ條理ナリ我カ帝國ノ華族ハ帝室ノ藩屏ナリ其地位ニ在ル者ヲシテ早ク國事ニ鍊磨セシムルコトヲ望ムハ則チ我カ帝國ノ爲メ必要ノ條理タレハナリ

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歲ニ達

シ各其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム前項議員ノ數ハ伯子男爵各總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

華族ノ議員タルニ滿二十五歲ノ年齡ニ達スルヲ以テ足レルモノト爲シタル理由ハ前條ニ於テ既ニ説明シタルヲ以テ再ヒ茲ニ贅セサルヘシ只本條ニ就キテハ伯子男爵悉ク議員タラシメス各總

數ノ五分一ヲ超過セサル員數ヲ選舉スヘキモノト定メタル理由ヲ説明スルニ止マルヘシ抑伯子男爵ヲ有スルモノ現今ニ在リテ五百二十九名ニ達ス之ヲシテ悉ク議員タラシメン乎他ノ議員ヲ容ル、ノ餘地ナキニ至ルヘシ蓋シ各院ノ議員ノ總數互ニ均一タルヲ必要トスルニアラスト雖モ其員數ニ彼は大差アルハ權利平等ノ原則ヲ害スルノ嫌ナキ能ハス而シテ衆議院ハ議員ノ數凡三百名トス之ト對立スル貴族院ニシテ伯子男ヲ以テ組成スル議員ノ數五百名以上ニ上ルキハ其レノミニテ對立ノ權衡均シキヲ失ス是レ其員數ヲ制限セサルヘカラサル所以ナリ而シテ其制限ノ實施方法ハ同爵者ノ選舉ニ由ルニ如クナシ他ナシ斯ノ如クスレハ其當選者ハ議院ニ列シテ同爵者ノ全體ヲ代表スルノ理ニシテ且其拔擢公平ニ出ツルモノナレハナリ

又同爵者ノ選舉ニ基ク議員任期ヲ定メタルモノハ其職ニ當ルノ

權利ヲ當選者ノ專有スル所ト爲サス新陳交替セシメンカ爲メニシテ猶ホ衆議院ノ議員ニ於ケルカ如ク一般ナリ其レ然リ衆議院ノ議員ハ四ヶ年ヲ以テ任期トス貴族院ノ被選議員ハ華族ニ出ツル者ト各府縣ノ最高納稅者ニ出ツル者トヲ問ハス七ヶ年ヲ以テ任期トシタルモノハ何ソヤ蓋シ衆議院議員ハ太凡十萬口ニ一人ヲ選ムノ割合ニシテ其内女子其他ノ無資格者ヲ除クモ華族五人ニ一人ヲ選ミ最高納稅者十五人ニ一人ヲ選ムノ割合ニ比スレハ被選ノ選ハ普通人民ニ最モ少キ勘定ナリ故ニ責メテハ新陳交替ノ期ヲ早ノテ其運命ノ不平均ヲ幾分カ補フヲ要スルモノトス是レ衆議院議員ノ任期ト貴族院被選議員ノ任期トノ間ニ短長ノ差アル所以ナラン乎他ニ理由アルヲ見サルナリ

又華族及最高納稅者ヲ選舉スルノ方法如何ニ關スル細則ハ本令ノ規定スル所ニアラスシテ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ムトアル以上

ハ豫メ臆測ヲ以テ之ヲ説明スヘキニアラス故ニ其如何ハ別ニ勅令ノ發布ヲ待チテ後知ルノ外ナキナリ
本條ニ於テ特ニ華族ノ被選議員ニ就キ説明シタルノミナラス其任期ヲ同フシ及其選舉方法ヲ別ノ勅令ニ讓リタル最高納稅者被選議員ニ就キテモ亦同時ニ説明シタルヲ以テ第六條ニ至リ此二箇ノ點ニ就キテハ更ニ説明ヲ爲サハルヘシ

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歲以上

ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

皇族ハ二十歲ニシテ議席ニ列シ公侯ハ二十五歲ニシテ議員タリ又伯子男ハ同シク二十五歲ニシテ議員タルヲ得其帝室ヲ尊ミ國憲ヲ重スルノ念慮ニ至リテハ年齡ノ區別ニ隨テ異ナルモノニアラス故ニ帝室ヲ尊ミ國憲ヲ重スルノ念慮ニ就キテハ此議員ヲ以

テ毫モ間然スル所アラサルヘシ然リト雖モ單ニ其念慮ノ厚キノミハ國家施政ノ希望ヲ満足セシムルモノニアラス加フルニ學識經驗ニ富ムノ元素ヲ以テセサルヘカラス蓋シ皇族公侯伯子男ハ學識經驗ニ富マスト云フニアラス必ス幼ヨリ學ヲ修メ路ニ當リテ實驗ヲ經タル年齡ニ達スル以上ハ同族ニ就キ其人ヲ得ルハ予ノ信シテ疑ハサル所ナリ然リト雖モ亦皇族華族ヲシテ悉ク斯ノ如キノ人タラシメシハ望ムヘキニアラス殊ニ壯年ノ輩ニシテ議席ニ列スル者ハ他日ニ之ヲ望ムモ其時ニ在リテハ學術經驗ニ富ムト謂フヲ得ス是ニ於テ乎皇族華族ヲ以テ貴族院ヲ占領セシムルキハ國家施政ノ希望ニ適フ才能兼備ノ老練者ハ少數ニ居ルヘシ而シテ議院ハ多數ノ支配スル所ナリ少數ナル老練者ノ力ハ之ヲ恃ムヲ難シ是ニ於テ乎同族外ニ其力ヲ戮ハスルノ人ヲ求ムルノ必要アル所以ナリ是レ國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル男子ニ

シテ年齢其度ニ達シタル者ハ族籍ヲ撰ハス勅任シテ貴族院ニ列セシムル所以ナリ

夫レ學識アリ又ハ勳勞アル者ヲシテ貴族院ニ列セシムルモノハ斯ノ如キ深意アルニ基クモノトス苟モ其任ニ當ル者ハ帝室ノ尊キト國憲ノ重キトヲ顧ミテ上下ノ間ニ立チ上ノ命スル所下ノ求ムル所一トシテ國憲ニ背馳スルモノハ斷乎シテ之ヲ排斥シ又一トシテ國是ニ適合スルモノハ確乎トシテ之ヲ協贊シ終始動かサルノ獨立心ヲ以テ其職ヲ奉セサルヘカラス苟モ上ニ佞シ下ヲ抑ユルノ舉動ヲ爲サ、ルヘキハ予ノ信シテ疑ハサル所ナリ然リト雖此議員ヲシテ斯ノ如キノ地位ニ立タシムルニハ先ツ其地位ハ他力ノ容易ニ動かス可ク能ハサルモノト爲スヲ要ス然ラサレハ身躬ヲ百折撓マス職ノ爲メニ一身ヲ犠牲トスルノ心ヲ以テ其任ニ當ルモ一朝他力ノ來リテ其地位ヨリ退クルコトヲ得ハ亦議員ノ

議員タル職務ヲ全フセント欲スルモ實際能ハサルナリ聖天子是ニ見ルアリ此議員ヲシテ終身官タラシメタルハ則チ他力ノ抑制ヲ今ヨリ除却スルノ深慮ニ外ナラサルモノトス

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

各府縣下ニ於ケル最高納稅者十五名ノ中一人ヲ貴族院ニ列セシムル理由ハ憲法第三十四條及本令第一條ニ於テ説明シ盡シタルヲ以テ茲ニ之ヲ略シ又其任期ヲ七年ト定メタルコト并ニ選舉ノ方法ニ關スル勅令ヲ待ツヘキコトハ本令第四條ニ於テ説明シタルヲ以テ更ニ贅セサルナリ

本條ニ就キ尙ホ殘ス問題ハ僅ニ互選ノ當選者ヲ勅任シ給フト否トハ一以テ慮ノ如何ニ由ルモノナルヤ將タ其當選者ヲ勅任セサルヘカラサルヤヲ研究スルニアリトス蓋シ是迄其振擢ノ選舉ニ基キテ尙ホ勅任ノ上職ニ當ル者ハ衆議院ノ議長及副議長ノミ(議院法第三條參看)然レモ議長及副議長ノ當選ニ就キテハ尙ホ勅任ノ式ヲ必要トスル理由アリ何トナレハ其當選者ハ各三名ニシテ任ニ就ク者ハ各一名ナルヲ以テ三名ノ當選者中ヨリ一名ヲ勅任セサレハ就職者定マラサレハナリ納稅者十五名ノ互選ニ由ル當選者ハ一名ニ過キス此一名ハ必ス貴族院ニ列スヘキ者トセハ勅任スルノ要果シテ何レニ在ルヤ或ハ其職ノ貴重ナルヲ知ラシムルカ爲メナルヘシト雖モ勅任式ハ國家ノ重事ナリ實用ナキニ之ヲ行フハ策ノ得タルモノニアラス貴族院ノ議員タル職務ハ勅任ノ式ヲ待タズ其性質ヨリ貴重ナルヲ知ルヲ得ヘシ特リ勅任

式ノ存スルヲ以テ其職務ノ貴重ナルヲ知ラシムルモノニアラサルヘシ故ニ此式ヲ行フノ理由ハ是ニアラスシテ他ニ在ルモノナランカ然リト雖モ十五名ノ互選ニ基ク當選者ハ慮ノ取捨ニ任スルモノニモアラス必勅任シ給フヘキモノナラン是ヲ以テ一見スル所ニ於テハ勅任ノ實用アラサルモノ、如シ或ハ勅任ノ實用ハ始メテ當選ノ時ニアラスシテ再選ノ時ニ現出スルモノト思考ス衆議院ノ如キハ除名セラル、モ被選資格ヲ失ハサル以上ハ再選ニ當リテ更ニ議院ニ列スルヲ妨ケス(議院法第九十七條參看)他ナシ衆議院議員ハ當選ヲ以テ就職ノ唯一ノ元素トスレハナリ之ニ反シテ貴族院議員ハ除名後更ニ勅許アルニアラサレハナリ再選ニ當リテ爲ルヲ得ス(本令第十條參看)即チ貴族院ノ被選議員ハ選舉ヲ以テ就職ノ唯一ノ元素トセズ尙ホ勅任セラル、ヲ要スルモノト初メヨリ爲シ置カサレハ除名後再選就職ヲ拒ムノ名ナキ

カ爲メナラン乎

第七條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

本條ノ趣意ハ要スルニ勅任議員ヲシテ有爵議員ヨリ其數多カラシメサルニアルモノトス他ナシ勅任議員有爵議員ヨリ多數ヲ占ムルキハ自然勝ヲ勅任議員ニ常ニ制セラル、ノ危險ナキヲ保タサレハナリ

本條ニ於テ單ニ勅任議員ト云ハスシテ逐一其勅任セラルヘキ人々ノ身分ヲ掲載シタルモノハ贅文ニ似タリト雖モ明瞭ニ明瞭ヲ加ヘタルノ嫌アルニ過キスシテ實際上何等ノ障礙アルヲ見サレハ敢テ瑕瑾ト云フニアラサルナリ

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

帝國ノ立法權ニ關シテ貴族院ノ有スル職權ハ憲法之ヲ認知シ議院法次テ之ヲ確保ス故ニ本條ニ掲載シタル同院ノ職權ハ同院ノ特有ニ屬スルモノトス是レ特リ貴族院令中ニ此條規ヲ置キタル所以ナリ

華族ハ帝室ノ藩屏ナリ隨テ華族ハ天皇ノ最モ親愛シ最モ慮慮ヲ垂レサセ給フ所トス是ヲ以テ華族ノ特權ハ慮慮ノ決スル所タリ每事怠ルナキハ敢テ疑ヲ容レス然リト雖モ天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ國家萬般ノ事慮慮ニ掛ケサセラレサルヲナシ慮慮ノ一決或ハ誤リナキヲ保タス是ニ於テカ國務ノ重要ナルモノニ關シテハ樞密院アリテ天皇ノ諮詢ニ應ヘ又華族ノ特權ニ關シテハ貴族院アリテ天皇ノ諮詢ニ應フル者ト定メタル所以ナリ

第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟
ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ
議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

公侯以上ハ年齢及次條ノ制限ニ觸レサルニ於テハ議員タルノ資
格ニ關シ爭訟ノ起ルコトアラサルヘシ何トナレハ此人々ハ其年齢
ニ達シテ法律上當然議員タルモノナルヲ以テ他ヨリ除キ容ル、
ノ餘地アラサレハナリ

又國家ニ勳勞アリ學識アル者ニシテ勅任セラレタル議員モ右ニ
同シシ或ハ年齢ニ達セサルカ或ハ次條ノ制限ニ觸ル、カ兩ツノ
中一ノ原由アルニアラサレハ勅命ニ對シ爭訟スルノ權利アラサ
ルヤ必セリ

由是觀之被選方法ニ就キ不穩ノ情狀アル場合ニ於テ此爭訟ヲ起
スニ至ルハ最モ多キノミ故ニ本條ノ主眼ハ專テ選舉上ニ基ク爭

訟ヲ判決スルニ在ルモノト云フモ可ナリ而シテ如何ナル選舉ハ
其當選ヲ無効トスルヤノ問題ハ別ニ勅令ヲ以テ定ムル所ノ選舉
規則ニ據ルニアラサレハ豫メ知ルヘキニアラスト雖モ要スルニ
選舉ハ自由ナラサルヘカラス詐欺脅迫ノ選舉ハ無効トスルニ至
ルモノト思考ス是レ蓋シ是ニ論スヘキノ要點ナラス是ニ論スヘ
キノ要點ハ是等ノ爭訟ヲ貴族院ニテ判決スヘキノモノト定メタル
理由ヲ知ルニ在ルナリ

貴族院ハ公族ノ列スル所ナリ輕キモ勅任セラレタル議員タラサ
ルナシ其爭訟ヤ是等高貴ノ人ノ名譽ニ關ス普通司法權ヲシテ干
與セシムヘキニアラス是レ敢テ司法權ヲ輕スルニアラスト雖モ
司法權ヲシテ拔扈セシムルハ亦三權鼎立ノ平均ヲ害ス是レ其判
決ハ他權ノ管掌ニ委テス同院ノ職權ニ任セタル所以ナリ而シテ
爭訟ノ判決ハ其手續其法式ニ從テ之ヲ爲サ、ルヘカラス同院ニ

於テ判決ノ權ヲ有ス故ニ其判決ヲ爲スニ必要ノ手續法式モ亦同院ノ議定スヘキモノト定メタルモノトス然レモ之ヲ全ク同院ノ議決ニ委テシテ猶ホ普通裁判官ヲシテ其訴訟法ヲ編成セシムルカ如キ嫌アルヲ免レス是レ其議定ノ當不當ニ就キ上裁ヲ請フヘキモノト明記シタル所以ナリ

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ
貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ
除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

禁錮ハ輕罪ニシテ其性質稍惡ムヘキモノヲ罰スル普通ノ刑ナリ

故ニ貴族院議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ、者ハ輕キモ輕罪重キハ重罪ヲ犯シタル社會ノ罪人ナリ豈ニ之ヲシテ國家貴重ノ貴族院ニ列セシムルヲ得ンヤ然ルト雖モ其例外ナキ能ハス夫ノ故殺ハ無期徒刑ヲ以テ普通ノ刑トス其特別ニ宥恕スヘキ原由アルニ於テハ刑法第三百十三條ニ據ルニ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ストアリ無期徒刑ヨリ三等ヲ減スルモ其刑禁錮ニ下ラス然ルモハ貴族院議員ニシテ特別宥恕ノ原由ニ基キ殺人罪ヲ犯スニ至ルモ除名ノ不幸ニ遭遇セサルヲ得ス而シテ特別宥恕ノ原由ハ概シテ人情ノ制スル能ハサルニ出テ、犯罪ニ至リタル場合トス其情ニ於テ憫ムヘキモ惡ムヘキニアラス刑法ノ之ヲ罰スルハ可ナリ併セテ議員ノ身分ヲ除クハ嚴ニ失スルノ感ナキ能ハサルナリ然ルト雖モ法令ハ動スヘカラス只其萬一ノ結果ヲ舉ケテ其當否如何ヲ疑フノミ豈他アラザヤ

貴族院議員ハ國民ノ龜鑑ナリ其公事ニ向テ信ヲ保ツヲ要スルノ
 ミナラス私事ニ就キテモ亦背信ノ所爲アルヘキニアラス負債ノ
 爲メ産ヲ破リ他人ニ損耗ヲ負ハシムルハ出入度ナク輕躁遠慮ナ
 キノ致ス所ニシテ概シテ其情ニ於テ惡ム所ナシト雖モ信ニ背ク
 ノ實ハ一ナリ信ニ背クノ人ナシテ龜鑑ヲラシムヘキニアラス是
 レモ亦前段ノ處刑者ト均シク除名ノ原由ト爲シタル所以ナリ
 貴族院ハ其國務ヲ議スルニ當リテハ衆議院ト毫モ異ナルナシ故
 ニ衆議院ノ秩序安寧ヲ保ツニ必要ノ紀律ハ貴族院ノ爲メニモ亦
 必要ナリ衆議院議員ノ秩序ヲ害スル者ヲ戒ムルニ必要ノ懲罰ハ
 貴族院議員ノ爲メニモ亦必要ナリ是レ懲罰ハ兩院議員ノ爲メ議
 院法第十七章及十八章ニ於テ紀律及警察并ニ懲罰ヲ一ニ定メタ
 ル所以ナリ然レモ特リ貴族院議員ノ除名ニ限り議院ノ專斷ニ委
 テス上裁ヲ請フヘキモノト定メタルハ貴族院議員タル身分ノ取

捨ハ特ニ天皇ノ預ラシメ給フ所ナレハナリ此理由ハ前段ノ處刑
 者及身代限者ノ除名ニモ亦均シク適用スヘキモノトス
 又除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニアラサレハ再ヒ議員ト
 爲ルヲ得サルハ事理ノ當然トス何トナレハ天皇ノ除名シ給ヒ
 タル議員ニシテ其勅許ヲ待タズ再ヒ議院ニ列スルキハ是レ勅命
 ニ抗スルノ舉動ヲ顯スニ似タルモノナレハナリ

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ

以テ勅任セララルヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタル

トキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ

議長副議長ヲシテ長ク其職ニ在ラシムルハ職權濫用ノ弊ニ門ヲ
 開クノ危險ナキ能ハス又何時ニテモ理由ナク其職ヲ免スルヲ得
 得ルモノト爲スルハ其職權ヲ維持スルノ力足ラサルノ遺憾ナキ

能ス是レ任期ヲ七年ト定メテ一ハ職權濫用ノ危険ヲ豫防シ二ハ其間獨立以テ職權ヲ維持セシメンコトヲ期シタル所以ナリ然リト雖モ公侯以上又ハ終身議員ハ常ニ七ケ年ノ任期間其職ニ就コトヲ得ヘシト雖モ被選議員其在職中ニシテ議長副議長ノ職勅任セラレルキハ七ケ年就職スルヲ得ス他ナシ被選議員ノ任期満チテ議長ノ職務ノミ帶フルコト能ハサレハナリ是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ

第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院ノ條規ニ依ル

貴族院ノ行務取扱ニ關スル總テノ規則ハ僅々本令ノ十有餘條中ニ網羅シ得ヘキモノニアラス本令ハ貴族院ニ關スル特別ノ要件ヲ規定シタルニ過キスシテ帝國議會タル兩院ニ通シテ適用スヘキ條規ハ既ニ議院法ノ定メタル所トス是レ其條規ハ同法ニ據ル

ヘキコトヲ明示シタル所以ナリ之ヲ要ルニ議院法ハ兩院ヲ支配スル普通規則ニシテ(但シ同法中衆議院ニ特別ノ性質ヲ有スルモノハ此限ニアラス)本令ハ貴族院ニ特別ノモノトス故ニ同法ト本令ト相抵觸スル場合ニ於テハ本令ヲ先ニシテ同法ヲ後ニセサルヘカラスト雖モ本令ノ足ラサル所ハ同法ヲ以テ補充スヘキモノト知ルヘシ本條ハ此意味ヲ指示シタルニ過キサルモノトス

第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

本令ハ勅令ナリ憲法第九條ニ據ルニ勅令ハ天皇ノ親ラ發シ給フヲ原則ト爲スモノニシテ議院ノ議決ヲ要セサルモノトス故ニ本令ノ條項ヲ改正シ増補スルノ勅令ヲ發スルニ當リテハ何レノ議院ノ議決ニ付セサルモ憲法ノ原則ニ違フモノニアラス然ルニ本令ニ限り將來條項ヲ改正シ又ハ増補スルキハ貴族院ノ議決ヲ經

ヘキモノト定メタルハ何ソヤ蓋シ貴族院ヲシテ其獨立體ヲ維持セシムルノ慮ニ出テタルニ外ナラサルヘシ若シ院令ノ改正變更ハ天皇ノ獨斷ニ因ルモノト爲スキハ貴族院ハ獨立體ノ眞面目ヲ有セサルニ至ルヲ以テナリ是レ本令ハ名勅令ニシテ普通ノ勅令ト其性質ヲ異ニシタル所以ナリ然リト雖モ之ヲ法律ト名稱スルヲ得ス他ナシ法律ハ特ニ貴族院ノ議決ヲ經ルヲ以テ足レリトセ、ス尙ホ衆議院ノ協賛ヲ經ルヲ要スレハナリ衆議院ノ干渉ヲ受クルモ貴族院ノ爲メニ利ナラス天皇ノ獨斷ニ委ヌルモ亦貴族院ノ獨立ヲ害ス是ニ於テ乎勅令ヲ以テ其基本ヲ定メ將來ノ改正増補ハ同院ノ議定ヲ經ヘキ一種特別ノモノトシテ其不利其害ヲ除クヲ力メタルモノナラン乎

貴族院令講義畢

宮内省達第二號

皇族列次ハ實系ノ遠近ニ從ヒ 皇位繼承ノ順序ニ依ル但シ親王叙品宣下アリシ者ニ限り特殊ノ席次ヲ以テシ一般ノ列次左ノ通定ム

- 熾仁親王 ○晃親王 ○彰仁親王 ○貞愛親王
- 朝彦親王 ○能久親王 ○威仁親王 ○載仁親王
- 依仁親王 ○裁仁王 ○邦芳王 ○博恭王
- 菊麿王 ○成久王 ○恒久王 ○輝久王
- 邦憲王 ○邦彦王 ○守正王 ○多嘉王
- 鳩彦王 ○稔彦王

明治二十二年二月十一日

奉勅

宮内大臣子爵土方久元

正改衆議院議員選舉法釋義

自叙

衆議院ハ立法府トシテ憲法上樞要ナル國家ノ機關ナリト雖其之ヲ組織スル議員ノ眞價ヲ觀來レハ敢テ之ヲ現時ノ議員ニ云ハス第一期以來屢々選舉シタル時ノ議員ハ概シテ識學ナク理想ナク又徳義ナシ故ニ其言動多クハ自己ノ利害痛痒ヨリ打算シ國家ノ休戚社稷ノ存亡ニ意ヲ留メス以テ操行不軌天下ニ横行スル者アリ豈慨歎ノ至ナラスヤ蓋シ渠等ハ眞ニ國民ノ輿望ヲ負フテ選舉セラレタルニ非スト雖抑モ亦帝國ノ議政權ヲ握レル議員ニ非ストセンヤ苟モ帝國ノ議員ニシテ斯ル無意識者ナシテ公堂ニ列セシメ其爲スカ儘ニ放任スルトセンカ獨リ國家ニ不幸ナルノミナラス國民トシテ萬國ニ恥ツル所ナキヲ得

ニ
 シヤ果シテ然レハ其弊ヲ絶ツノ法如何日ク選舉法ノ改正ニ如クハナ
 シ選舉法ハ本ナリ議員選舉ハ末ナリ議員ノ選舉ヲ慎ミ輿望ヲ荷ヘル
 知名ノ士ヲ舉ケンコトヲ務ムルモ之カ選舉ノ法律ニシテ不完全ナル
 アラシカ到底其弊ヲ絶ツ能ハサレハナリ當局者此ニ見ルアリ衆議院
 選舉法ヲ根本的ニ改善シ發布セラル、ニ至レリ庶幾ハ次期ノ選舉以
 後多才多識ニシテ德望洋々タル選良ヲ得シカ著者ハ本法ノ發布ニ接
 シ聊カ祝意ヲ表スルコト爾リ

明治三十三年四月

著者識

目次

衆議院議員選舉法……………一頁

第一章 選舉ニ關スル區域……………二頁

第二章 選舉權及被選舉權……………六頁

第三章 選舉人名簿……………十八頁

第四章 選舉投票及投票所……………二十七頁

第五章 投票所取締……………三十七頁

第六章 開票及開票所……………三十九頁

第七章 選舉會……………四十六頁

第八章 當選人……………四十九頁

第九章 議員ノ任期及補闕選舉……………五十五頁

第十章 選舉訴訟及當選訴訟……………五十六頁

第十一章 罰則	六十一頁
第十二章 補則	七十一頁
第十三章 附則	七十頁
別表	七十頁

目次終

改正衆議院議員選舉法釋義

後藤本馬著

緒言

衆議院議員選舉法ハ明治廿二年二月法律第三號ヲ以テ公布セラレ第一期ノ選舉以來施行セラレタルモ輒近ニ至リ人口ノ増殖ト政治思想ノ發達トハ自ラ該選舉法ノ改正ヲ促シ來リテ終ニ政府ハ第十四議會ニ之カ改正案ヲ提出シ貴衆兩院ノ協賛ヲ經テ明治三十三年三月廿八日法律第七十三號ヲ以テ茲ニ本法ノ公布ヲ見ルニ至レリ

本法ハ之ヲ舊法ニ比スレハ小選舉區制ヲ採リ、選舉權被選舉權ノ制限ヲ縮少シ、記名投票ヲ單記無記名ニ改メ、議員數ヲ増加シ、市ヲ獨立セシメタル等著ク變更ヲ加ヘタリ元來衆議院議員ノ選舉ハ國民タル特權ノ一ニシテ名譽アル國民ノ參政權ヲ實地ニ活動セシムルノ基礎ニ外ナラス凡ソ代議制ノ初メテ發生シタルハ英國ニシテ佛國之ニ倣ヒ尋テ西國、荷國、以國、米國、獨國等ニ及ホシ延ヒテ我國ニ東漸シ我國ハ明治維新ノ改

革ヲ以テ封建ノ政治ヲ打破シ明治廿三年議會ノ開設以來所謂純全タル君主の立憲ノ政體ヲ完成シタルモノナリ

第一章 選舉ニ關スル區域

第一條 衆議院議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區及各選舉區ニ於テ選舉ス可キ議員ノ數ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム
註疏 議員ハ議會ヲ組織スルノ要素ナレハ其重要ナルコト素ヨリ論ヲ須タス故ニ其選舉スヘキ定員ノ如キハ憲法ヲ以テ定メタル國アレハ我國ハ一箇ノ法律ヲ以テ之ヲ定ムル所以ノモノハ憲法ハ國家永久ノ基本法ニシテ濫リニ之ヲ變更スヘキモノニアラスト雖モ法律ハ時宜ニ依リテ屢々改正ヲ加フルモ敢テ咎ムヘキニ非サレハナリ本條第一項ハ議員ハ何レノ所ヨリ選舉スヘキカヲ定メタルナリ即チ議員ハ各選舉區ニ於テ選舉ス例ヘハ東京府ニ於ケル市部ヨリ十一人郡部ヨリ五人京都府ニ於ケル市部ヨリ三人郡部ヨリ五人ト云フカ如ク各府縣ノ各區ヨリ一定ノ議員ヲ選舉スヘキモノトス
第二項ハ選舉區ノ區域及ヒ其各選舉區ニ於テ選舉スベキ議員ノ定數ヲ規定シタルモノナリ此選舉區ノ事ニ付テハ大ニ議論アリ初メ本法ノ原案ナル政府案ノ衆議院ニ提出セラル

ヤ衆議院ニ於テハ從前ノ如ク小選舉區制ヲ採リ政府案ヲ修正シタルモ貴族院ニ於テハ大選舉區制ヲ贊シ原案ヲ復活セシメ終ニ兩院ノ協議ヲ以テ大選舉區制ヲ採用シ同時ニ市ヲ獨立セシムルコト、ナリタルモノ、如シ蓋シ從前ノ如ク小選舉區ナルトキハ其間ニ或ハ情實ヲ以テ投票スル者アリ或ハ賄賂ノ爲メニ其意ヲ枉クル者アリ或ハ親戚ノ緣故ニ依リ投票スル者アリ或ハ一二富豪ノ勢力ニ屈シテ人材ニ非サル者ヲ舉クルコトアラント雖モ之ニ反シ大選舉區ト爲ストキハ情實ノ行ハレ難キハ勿論賄賂ヲ行ハント欲スルモ僅少ノ金錢ノ能クスル所ニアラス眞ニ衆望ヲ有スル知名ノ士ヲ得ルコトヲ得ン或ル人ハ曰ク大選舉區制ハ大政黨ノ爲メニ蹂躪セラレ少數代表ノ主義行ハレサルノ弊アリト若シ然ルトセハ大選舉區ニ限ラス小選舉區ト雖モ亦弊アリト謂ハサルヘカラサルニ至ラン

第二條 投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

特別ノ事情アル市町村ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設クルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ投票ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キトキハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

註疏 本條ハ投票區ノ區域ニ關スル規定ナリ第一項ニ投票區ハ市町村ノ區域ニ依ルトア

ルヲ以テ投票區ハ從來市町村ノ行政區劃ニ依リテ一投票區ヲ成スモノナリトス投票區トハ議員ヲ選舉スルカ爲メニ選舉人ノ投票ヲ爲ス場所ノ一區域ヲ云フ

第二項ハ特別ノ事情アル市町村ニ於テハ一市町村ニ於テ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ヲ併合シタル一區域ヲ以テ一投票區ヲ設クルコトヲ得ル旨ヲ定メタリ其特別ノ事情トハ本項前段ノ場合ニ於テハ其一市町村ノ區域廣大ニシテ人口多キカ又ハ道路舟車ノ便自由ナラサル如キチ云ヒ後段ノ場合ニ於テハ其一町村ノ區域狹小ニシテ人口少キカ又ハ選舉資格アル者寡キ等ノ如シ尤モ其特別ノ事情アルヤ否ヤハ事實ノ問題ニシテ若シ其特別ノ事情ナキトキハ第一項ニ從ヒ市町村ノ區域ヲ以テ投票區ト爲サ、ルヘカラスト雖果シテ特別ノ事情存スルトキハ勅令ヲ以テ二箇以上ノ投票區又ハ一投票區ヲ設クルコト、ナルナリ

第三項ハ第二項ノ規定ヲ爲シタル結果ヲ想像シテ規定シタルモノナリ乃チ第二項ノ如ク特別ノ事情アルカ爲メニ一市町村内ニ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ヲ以テ一投票區ヲ設ケタルヲ該選舉法ノ規定ヲ適用シ難キ故障ヲ生シタルトキハ特ニ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲シ選舉ヲ完結セシムルコトヲ得ルトノ義ナリ

第三條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ

一 町村、其組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

註疏 町村組合トハ甲ノ町村ト乙ノ町村ト連合シテ其甲乙兩町村ノ事務ヲ處理スルヲ云フ然レモ町村組合ハ必スシモ町村ノ事務ノ全部ヲ處理スルニアラスシテ町村ノ事務ノ一部ヲ處理スルコトアリ本條ハ其一部處理ノ場合ヲ想像セス全部處理ノ場合ヲ想像スルカ以テ其町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルトキハ之ヲ一町村ト看做シ又其結果トシテ之カ組合管理者ヲ町村長同様ニ看做シテ取扱フモノトス

第四條 市町村長ハ投票管理者トナリ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス

註疏 本條ハ投票管理者トナリテ投票ニ關スル事務ヲ擔任スル者ヲ定メタルナリ投票ニ關スル事務トハ投票所ノ指定ヲ爲スコト及ヒ其告示ヲ爲スコト又ハ投票所ノ開閉若クハ投票用紙ノ交付ヲ爲ス事等ノ如シ之レ皆市町村長ノ任務ニシテ市町村長ハ投票管理者ノ名ニ於テ之ヲ取扱フヘキモノトス

第五條 開票區ハ郡市ノ區域ニ依ル

郡市長ハ開票管理者トナリ開票ニ關スル事務ヲ擔任ス
註疏 開票區ハ郡市ノ區域ニ依ルトアルヲ以テ開票區ハ郡部ト市部ノ區劃ニ依リ一開票區ヲ成スモノナリトス開票區トハ議員選舉ノ投票ヲ開函シ計算スル場所ノ一區域ヲ云フ

選舉ニ關スル區域

第二項ハ其開票區ノ開票管理者ハ何人ヲ以テスヘキヤチ定ム即チ開票區カ郡ナルトキハ郡長、市ナルキハ市長之カ管理者トナリ開票ニ關スル一切ノ事務ヲ擔任スヘキモノトス

第六條 地方長官ハ選舉長トナリ選舉ニ關スル事務ヲ統轄ス

註疏 本條ハ選舉長ハ何人ヲ以テスルカチ定メタルナリ地方長官トハ府縣知事ニシテ府縣知事ハ其市部タルト郡部タルトニ論ナク其選舉區ノ選舉長トナリ選舉ニ關スル一切ノ事務ヲ統轄即チ總理セラル、モノトス

第七條 行政區畫ノ變更ニ因リ選舉區ニ異動ヲ生スルモ現任議員ハ其職ヲ失フコトナシ

註疏 市町村ノ行政區畫ヲ變更スルカ爲メニ甲ノ選舉區ノ一部ヲ割キテ乙ノ選舉區ニ合併セラル、コトアルモ甲ノ選舉區ヨリ選出セラレタル現任ノ議員ハ其職ヲ失フモノニアラズ若シモ其職ヲ失フモノナリトセバ更ニ議員ノ選舉ヲ爲サ、ルヘカラスシテ議會ノ立法機關ナシテ充分ナル活動ヲ爲ス能ハサラシムルニ至ラン之レ本條ノ規定アル所以ナリ

第二章 選舉權及被選舉權

第八條 左ノ要件ヲ具備スル者ハ選舉權ヲ有ス

- 一 帝國臣民タル男子ニシテ年齡滿二十五年以上ノ者
 - 二 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上其ノ選舉區内ニ住所ヲ有シ仍引續キ有スル者
 - 三 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上地租十圓以上又ハ滿二年以上地租以外ノ直接國稅十圓以上若ハ地租ト其ノ他ノ直接國稅トヲ通シテ十圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者
- 家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

註疏 本條ハ選舉權即チ選舉資格ニ關スル規定ナリ本條各號ノ要件ニ適當スル者ハ衆議院議員ヲ選舉スルノ權能アルモノトス

本條ノ第一號ヲ分析スレバ第一帝國ノ臣民ナルコト第二男子ナルコト第三年齡滿二十五年以上ナルコトノ三箇ノ要素ヲ具備セサルベカラズ夫レ帝國臣民ニ非サレバ選舉權ナク又被選舉權ナシ然レモ外國人モ日本ニ歸化スレバ日本臣民タルノ分限ヲ取得スルヲ以テ等シク選舉權及ヒ被選舉權ヲ得ヘシ又帝國臣民タリト雖モ女子ハ選舉權ナク被選舉權ナシ外國ニテハ往々女子ニ選舉權ヲ與フルノ國アリト聞ク彼ノ他國ノ多額納稅者中獨立

ノ女子ニ選舉權ヲ與フルカ如キ其一例ナリ又々滿二十五歲以上ニ非サレバ智識經驗共ニ發達セサルカ故ニ選舉權ヲ與ヘザルナリ何レノ國モ未成年者ニ選舉權ヲ與フルモノナシ各國ノ選舉權ヲ得ル年齢ヲ參考ノ爲メニ掲ケレハ英吉利、佛蘭西、白耳義及伊太利ハ二十一歳、奧地利及普魯西ハ二十四歳、西班牙、獨逸ハ日本ト同様ニ二十五歳ナリ我國ニ於テモ舊選舉法以來此年齢ニ付テハ變更ナシ

此滿二十五歳ト云フ時期ハ何レノ時ナリヤト云フニ二説アリ一ハ選舉人名簿調製ノ期日ト云ヒ一ハ選舉ノ當日ト云フサレモ第一説ヲシテ當テ得タリトセハ本條第二號ノ場合ニ住所ノミ選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上云々ト其期日ヲ明示スルニモ拘ハラズ第一號ニノミ其明示ヲ缺クノ理由ナシ又年齢ハ死亡セザル限りハ永續スルモノナレバ納稅資格ノ如ク選舉人名簿調製ノ期日ヲ期トスルノ必要ナキガ如シサレモ第二説ニ於テモ選舉人名簿ハ第二十七條ニ依リ次年ノ選舉人名簿確定ノ日マデ確定動スベカラザルガ故ニ臨時選舉ノ期日マデニ滿二十五年ニ達スルモ選舉權ヲ行フニ由ナシ寧ロ第一説ニ從フノ妥當ナルニ若カス

第二號ハ選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上其選舉區内ニ住所即チ生活ノ本據ヲ有シ仍ホ引續キ有スル者タルコトヲ要ス

第三號ノ一ヲ分析スレバ第一選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上地租拾圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル事第二滿一年以上地租以外ノ直接國稅拾圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル事若クハ地租ト其ノ他ノ直接國稅トヲ通シテ拾圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者ナル事ノ二箇中其一ナカルヘカラズ地租以外ノ直接國稅トハ所得稅營業稅ノ如キヲ謂フ地租ニ付テハ選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上トアリテ地租以外ノ直接國稅ニ付テハ滿一年以上ト規定シ一年ノ差ヲ設ケタルハ如何ナル理由ナリヤト云フニ蓋シ土地ノ所有ニ重キヲ置キタル故ナラン

第三號ノ二ニ依レバ被相続人ノ納稅額五圓以上ナリシトキハ家督相続人ノ名義ニ於テ納稅ノ義務ヲ負擔スルコト一年若クハ二年ニ滿タザルモ仍引續キ拾圓以上ヲ納ムル者ナル時ハ相続人ハ選舉資格ヲ有スルモノトス

第九條 前條ノ要件中其年限ニ關スルモノハ行政區畫變更ノ爲メ中斷セラル、コトナシ

註疏 前條ノ要件中其年限ニ關スルモノトハ第八條第二號ノ滿一年以上其ノ選舉區内ニ住所ヲ有シ仍ホ引續キ有スル事全條第三號ノ滿一年以上地租拾圓以上又ハ滿二年以上地租以外ノ直接國稅拾圓以上云々ノ年限ヲ指示シタルモノトス假令行政區畫變更ノ結果甲

ノ町村ヨリ乙ノ町村ニ併合セラル、ユトアルモ甲ノ町村ニテ滿一年以上住所ヲ有シタリトカ若クハ滿一年若クハ二年以上納税シタリトカ云ヘル資格ヲ乙ノ町村ニ併合シタル爲メ中斷セラル、ユトナシトノ義ナリ

第十條 帝國臣民タル男子ニシテ年齡滿三十年以上ノ者ハ被選舉權ヲ有ス

註疏 本條ハ被選資格ヲ定メタルモノナリ舊選舉法ニ於テハ被選資格ハ第一 日本臣民ノ男子ナル事第二、年齡滿三十年以上ナル事第三、滿一年以上(所得税ニ付テハ滿三年以上)其選舉府縣内ニ於テ直接國税十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タル事ノ三條件ヲ要セシガ本法ニ於テハ單ニ年齡ヲ三十年以上ト制限シタルノミナシバ苟モ日本臣民ノ男子タル以上ハ純全タル日本人ニテモ或ハ外國人ノ日本ニ歸化シタル者ニテモ又縱令此等ノ者ガ地租其他ノ直接國税拾圓以上ヲ納メサル者ニテモ尙ホ且ツ被選資格ヲ得ルニ毫モ差支ナキノミナラズ年齡ノ三十歳ニ達スルト共ニ此被選舉權ヲ生ズルナリ
舊法ニ於テハ右示ス如ク滿一年以上其選舉府縣内ニ於テ云々ト納税ノ要件アルノミナラズ其選舉府縣内トノ制限アルヲ以テ假令十五圓以上ノ納税者ニテモ他府縣ニテ納税スル者ハ到底選舉府縣ニテハ被選權ヲ得ル能ハザリシガ新法ニハ右述ブル如ク納税ノ條件ヲ

要セザルヲ以テ從テ其選舉府縣内ニ云々ト云ヘル如キ拘束ナシ故ニ日本國ニ在籍スル臣民タル以上ハ長崎ニ住スル者ニテモ東京府ノ市部又ハ郡部ノ選舉區ヨリ議員ニ選出セラル、ユトヲ得ベク又ハ北海道ノ住人ニテモ東海道ヤ北陸道將タ山陽道邊ノ某選舉區ヨリ選出セラル、ヲ得ルナリ

第十一條 左ニ掲クル者ハ選舉權及ヒ被選舉權ヲ有セス

- 一 禁治産者及準禁治産者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
- 三 剝奪公權者及停止公權者
- 四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

註疏 本條ニハ選舉權并ニ被選權共ニ之ヲ有セザル者ヲ列舉シタルナリ第一號ノ禁治産者トハ心神喪失ノ常況ニ在ル者所謂癡癲白痴ノ如キ是ナリ元來選舉權被選舉權ノ如キハ公權中最大ナルモノナレバ斯カル癡癲白痴ノ如キ者ニ此重要ナル公權ヲ行ハシムベカラ

選舉ニ關スル區域

ザルヤ言ヲ要セズ準禁治産者トハ心神耗弱者、聾者、啞者、盲者及ヒ浪費者ノ如キ是ナリ此等ノ者ハ保佐人ノ同意ナクンバ民法上ノ或ル行爲ヲ爲スコトヲ得ザルモノナレバ選舉權被選舉權ノ如キハ前段ノ理由ト同一理由ニ依リ有セシメザルモノトス

第二號ノ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘザル者ハ一家ノ計ヲ爲ス能ハサルモノナリ一家ノ計スラ行ヒ得サルモノ何ゾ國家ノ計ヲ知ランヤ然レモ其債務ノ辨償ヲ終ヘタルトキハ即チ其ノ能力ヲ表スルモノナルヲ以テ選舉權被選舉權ヲ有スルニ至ルナリ又タ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタル者之レ亦身代限りノ處分ヲ受ケタルト同様辨償ヲ終ヘサル間ハ公權ヲ喪失スルヲ以テ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ハ選舉權被選舉權ヲ有セサルナリ復權ノ決定確定スレバ既ニ其者ハ債務ノ辨償ハ終ヘタルモノナルヲ以テ社會ノ信用ヲモ其復權ト同時ニ回復スベケレバナリ

第三號ノ剝奪公權者トハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑法ニ依レハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ終身公權ヲ剝奪セラル、ナリ又タ停止公權者トハ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者其刑期間公權ヲ行フコトヲ得ザルヲ謂フ此二者ハ公權中ノ最大ナル選舉權被選舉權ヲ行フコトヲ得ザルハ刑法上ヨリ見ルモ明白ニシテ特ニ本條ニ規定ヲ要セザル所ナリ蓋シ一層明白ナラシメンガ爲メニ設ケタル規定タルニ外ナラズ

第四號ハ未決拘留中ニ在ル者ニ選舉權被選舉權ヲ有セシメザル規定ニシテ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケ其裁判確定シタルトキハ刑ノ執行ニ著手シ或ハ公權ヲ停止セラレ(輕罪ノ刑ニ處セラレタル者)或ハ公權ヲ剝奪セラル、モノ(重罪ノ刑ニ處セラレタル者)ナレバ勿論公權ノ一タル選舉權被選舉權ヲ行フコトヲ許サ、ルモ其裁判ノ確定前即チ未決拘留中ハ果シテ公權ヲ行フコトヲ得サルヤ否ヤハ規定ヲ待ツテ後知ルベキ事ニ屬ス故ニ本號ノ規定ヲ設ケ未決拘留中ニアル者ト雖モ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ選舉權被選舉權共ニ之ヲ有セザルコトヲ明カニシタルナリサレバ未決拘留中ノ者ニシテ未ダ刑ノ宣告ヲ受クルニ至ラザルハ假令重罪ヲ犯セシ嫌疑アルモノト雖モ選舉權被選舉權ヲ有スルヤ言ヲ須タズ又タ違警罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其裁判ノ確定ト否トニ關セズ選舉權被選舉權ヲ有ス之レ他ナシ本號ニ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル云々トアリテ違警罪ニ付テハ之ヲ取除キタルト又タ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑ノ執行中ト雖モ公權ヲ停止セラル、コトナケレバナリ

第十二條 華族ノ戸主ハ選舉權及被選舉權ヲ有セズ

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者及戰時若クハ事變ニ際シ召集中ノ者又ハ官立公立私立學校ノ學生、生徒亦前項ニ同シ

註疏 華族ノ戸主ハ公爵侯爵ニ在リテハ滿二十五歳ニ達スレバ當然貴族院ノ議員トナリ
 伯爵子爵男爵ニ在リテハ互選ニ依リテ(滿二十五歳ニ達スレバ)是亦貴族院ノ議員トナル
 ナリテ更ニ衆議院議員ノ選舉權被選舉權ヲ與フベキニアラズ若シ之ヲ與フルトキハ憲法
 上ノ兩院分立ノ主義ニ反スルニ至ルサレバ華族ノ戸主ニアラザル者ハ選バレテ貴族院議
 員ト爲ルコトヲ得ザルノミナラズ又其選舉人タルコトヲ得ザルヲ以テ素ヨリ衆議院ノ選
 舉人被選舉人タルモ差支ナシ之レ本條第一項ニ華族ノ戸主トアリテ單ニ華族ト記セザル
 所以ナリ

陸海軍ノ軍人ニ現役中ノ者ハ勿論豫備後備ニ在ル者ト雖戰時若クハ事變ニ際シ召集中ノ
 者ハ選舉權被選舉權ヲ有セサルナリ之レ國家重要ノ職務ニ服スル軍人ナシテ選舉權被選
 舉權ヲ行ハシムルニ至レハ軍務ヲ曠廢シ一國ノ安危ニ關スルノミナラズ軍人ナシテ政治
 ニ容喙セシムルハ私ニ兵力ヲ以テ國政ヲ左右スルノ端緒ヲ開クノ恐アレバナリ

官立公立私立ノ學生、生徒ハ修學中ニシテ一般ニ少年ノ者ナレバ智識ノ發達完全セザル
 ノミナラズ若シ選舉權被選舉權ヲ與ヘテ政治ニ奔走スル事ヲ許サバ緊要ナル修學ノ時期
 ナ失シ未來ノ國民ヲ過ルノ恐アリ之レ其選舉權被選舉權ヲ與ヘサル所以ナリ

第十三條 神官、神職、僧侶其他諸宗教師、小學校教員ハ被選舉權ヲ有セ

ス其ノ之ヲ罷メタル後三ヶ月ヲ經過セサル者亦同シ

政府ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ政府ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ被選舉
 權ヲ有セス

註疏 神官トハ府、縣、郷、村社ニ奉務スル社司社掌ヲ云ヒ神職トハ官、國幣社ニ奉務
 スル官司、禰宜、主典ヲ謂フ諸宗ノ教師トハ耶穌教其他諸宗ノ布教師ヲ稱ス夫レ神官神
 職僧侶其他諸宗ノ教師ニ被選舉權ヲ與ヘザルハ政教一途ヨリ出ヅル弊ヲ防ガンガ爲メナ
 リ歐洲諸國ニ於テハ昔時ハ政權ハ僧侶ノ掌握スル所ナリシ之レ即チ政治ト宗教ノ混同シ
 タル歴史タリ近世ニ至リテハ各國共ニ政教ノ區分立チ僧侶ニシテ政治ニ關スルコトナキ
 ニ至レリ

小學校教員ニ被選舉權ヲ有セシメザルハ若シモ小學校教員ガ被選舉權ヲ有シ其結果選舉
 ノ運動ニ從事スル端緒ヲ開クニ至レバ教育ヲ忽諸ニ附シ國民教育ノ基礎ヲ腐敗セシムル
 ノ恐アレバナリ

第一項ニ掲ゲタル神官以下小學校教員ニ至ル迄其現職ニ在ルトキノミナラズ之ヲ罷メタ
 ル後三ヶ月ト雖モ三ヶ月間ハ同一ノ理由ニ基キ被選舉權ナシ

第二項政府ノ請負者ニ被選舉權ヲ與ヘザルハ私利ヲ營マンカ爲メニ國政ヲ妄議スルノ弊

ヲ防ガンガ爲メナリ

第十四條 選舉事務ニ關係アル官吏吏員ハ其ノ選舉區内ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後三箇月ヲ經過セサル者亦同シ

註疏 選舉事務ニ關係アル官吏吏員トハ其選舉ニ關スル市町村長郡長地方長官ノ如キ是ナリ此等ノ者ニ被選舉權ヲ有セシメザルハ選舉ニ關係アルガ爲メ不正ノ手段ヲ以テ自己ノ當選ヲ計ルガ如キ弊ナカフシメンガ爲メナリ

然レモ本條第一項ノ官吏吏員其選舉區外ニ於テハ被選舉權ヲ有スルヲ以テ其職務アルガ爲メニ絶對的ニ被選舉權ナキニアラズ只其選舉區内ニ於テ現任ノ間及ビ之ヲ罷メタル後三ヶ月間被選舉權ナキニ過ギズ

第十五條 宮内官、判事、檢事、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計検査官、收稅官吏及警察官吏ハ被選舉權ヲ有セス

註疏 本條ハ被選舉權ヲ有セザル官吏ヲ舉示シタルモノナリ然レモ此等ハ現任者ニ限り非職退職職者ニ適用セズ

宮内官トハ帝室ノ内政ニ關係アルモノヲ云フ抑モ宮内官ヲシテ議員タルコトヲ得セシメザルハ若シ議員タル事ヲ許サンカ帝室ノ内政ニ與ルガ爲メニ自ラ政黨ノ影響ヲ宮中ニ及

ボサンコトヲ恐レルバナリ蓋シ宮内省ノ官吏ハ他ノ官省ト異リ官吏登庸ノ法モ全ク異リテ行政官ト同一ニ論ズベカラザルモノアリ

判事トハ法律適用ヲ司ル裁判官ニシテ立法ノ事務ニ參與セシムルトキハ弊害ヲ來タスノ恐アリ檢事トハ裁判所ニ於テ公訴ノ提起實行其他法律執行ノ任ニ當ルモノニテ實ニ公益ノ代表者ナレバ是亦立法ノ事務ニ參與セシムルハ弊害アリ行政裁判所長官行政裁判所評定官ハ行政官ノ違法處分ニ依リ人民ノ權利ヲ傷害シタル時其違法處分ヲ取消シ以テ公平ノ裁判ヲ爲スベキ職務ニ在ル者ナレバ司法裁判官モ同様立法ノ事務ニ參與スルハ弊アリ會計検査官ハ政府ノ豫算ヲ検査確定スル獨立ノ位地ニアルモノナレバ之ヲシテ議員タラシムルハ偏頗ノ恐アリ故ニ被選舉權ヲ有セシメス茲ニ検査官ト云フハ検査官補ヲ包含スルヤ勿論ナリ收稅官吏トハ稅務管理局ノ吏員、烟草專賣所ノ吏員及ビ府縣ノ收稅官、稅關ノ吏員ノ如キヲ云フ此等ハ身自ラ收稅ノ衝ニ當ルモノナレバ被選舉權ヲ與ヘズ之レ當選セラレノコトヲ欲シテ徵稅上及ビ選舉上ニ不正ノ手段ヲ運ラスノ恐アレバナリ警察官モ亦被選舉權ナシ蓋シ警察官ハ政治ニ付テハ中立ヲ保チ最モ公平ヲ守ラザルベカラザレバナリ

第十六條 前條ノ外ノ官吏ハ其職務ニ妨ナキ限ハ議員ト相兼ヌルコト

選舉ニ關スル區域

ヲ得

十八

註疏 前條ニ掲ゲタル外ノ一般官吏ハ其職務ニ妨ゲナキ限リハ議員ヲ兼スルコトヲ得ルナリ舊法ニ於テモ之ヲ許シタリ聞ク北米合衆國、白耳義國ノ如キハ議員ヲ兼スルコトヲ許サザルナリト

第十七條 府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

註疏 府縣會ノ議員ガ衆議院議員ト相兼ヌル事ヲ許サザルハ別ニ地方議會ノ參政權ヲ有スルモノナルヲ以テナリ若シモ兼任ヲ許サンカ全國ヲ代表スベキ衆議院議員ガ地方的感情ヲ以テ代表スルノ恐アリ之レ本條ニ其兼任ヲ禁シタル所以ナリ

第三章 選舉人名簿

第十八條 町村長ハ毎年十月一日ノ現在ニ依リ其ノ町村内ニ住所ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調査シ選舉人名簿正副二本ヲ調製シ十月十五日迄ニ郡長ニ送付スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ送付シタル名簿ヲ調査シ其ノ修正スヘキモノハ修正ヲ加ヘ副本ハ十月三十一日迄ニ之ヲ町村長ニ返付スヘシ

市長ハ毎年十月一日ノ現在ニ依リ其ノ市内ニ住所ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調査シ十月三十一日迄ニ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名、官位、職業、身分、住所、生年月、納稅額及納稅地等ヲ記載スヘシ

註疏 本條ハ選舉人名簿ノ調製ニ付テ規定シタルナリ抑モ選舉人名簿ノ制ハ佛國ニ濫觴シ英國之ニ倣ヒタルナリ現今ニテハ各國共ニ之レナキハ非ザルノミナラズ何レノ國モ其調製ヲ慎重セザルハアラズ蓋シ選舉人名簿ハ選舉權者ノ資格ヲ證明スル重要ナル物件ナリ故ニ一たび之ニ記載セラレタル以上ハ假令其名簿ノ確定セザル以前ト雖モ正當ノ理由ナクシテ之ヲ變更スルコトヲ得ズ故ニ之ニ記載セラレザル者ハ縱令後ニ其ノ有權者タルコトヲ證明スルモ投票スルコトヲ得ザルハ勿論ナリ

選舉人名簿ハ選舉ヲ行フ年ト否トニ拘ハラズ之ヲ調製スベキモノニシテ此名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定シ翌年ノ選舉人名簿確定ノ時即チ翌年ノ十二月十九日マデ效力ヲ有スルナリ

本條第一項ニ依レバ郡ニ在テハ町村長ハ毎年十月一日ノ現在ニ依リ其ノ町村内ニ住所ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調査シテ選舉人名簿正副二本ヲ作ルヘキモノトス若シ町村組合ニ

選舉人名簿

十九

シテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノナルトキハ組合管理者町村長ノ資格ヲ以テ之ヲ作ルベシ其之ヲ作りタルトキハ十月十五日迄ニ郡長ニ送付スベキモノトス

右ノ送付ヲ受ケタル郡長ハ其名簿ヲ調査シテ修正ヲ加フベキ點アレバ之ヲ修正シ副本ハ十月三十一日マデニ町村長ニ還付セザルベカラズ之レ第二項ノ規定スル所ナリ

第三項ノ市長ハ下ニ町村長ナク上ニ郡長ナキモノナレバ毎年十月一日ノ現在ニ依リ十月卅一日迄ニ自ラ選舉人名簿ヲ作ラザルベカラズ蓋シ其名簿ハ正本一通ヲ以テ足レリトス

選舉人名簿ニ記載スベキ事項ハ(一)選舉人ノ氏名(二)官位(三)職業(四)身分(五)住所(六)生年月(七)納税額及納税地是ナリ此等ハ皆資格ノ有無ヲ判斷スルノ資料タラザルハナシ夫レ官位アルモ却テ爲メニ資格ナキモノアリ官立學校ノ教官、陸海軍ノ軍人ノ如シ職業ニ因リテ資格ナキ者アリ神官僧侶ノ如シ身分ヨリシテ資格ナキモノアリ華族ノ戸主ノ如シ住所ハ其府縣内ニ一年以上ナルヲ要シ生年月ハ滿二十五年ニ達シタルヤ否ヤヲ調査スルニ要アリ納税額ハ拾圓以上ナルヤ否ヤヲ知ルニ便シ納税地ハ資格ニ大ニ關係アリ例ヘバ大阪府ニ於テ地租ヲ納ムルモ埼玉縣ニ住所ヲ有シタル者ハ納税資格ナキナリ然レモ同一ノ投票區域内ニ納メザルモ其ノ選舉區内ニ納ムル者ハ其ノ資格ニ影響ヲ及ボサズ

第十九條 選舉人其ノ住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムル

トキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ證明ヲ得テ十月五日迄ニ其ノ住所
地ノ市町村長ニ届出ツヘシ其期日迄ニ届出ヲ爲サザルトキハ其ノ納
税ハ選舉人名簿ニ記載セララルヘキ要件ニ算入セズ

註疏 命令トハ勅令閣令省令ノ如キヲ云フ選舉人が住所ヲ有スル市町村外ニ於テ納税ス
ル時ハ選舉人名簿調製ノ責アル者之ヲ知ルニ由ナシ仍テ納税者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ
其證明ヲ得テ十月五日迄ニ其住所地ノ市町村長ニ届出デザルベカラズ若シ其期日迄ニ届
出デザルモ其納税ハ選舉人名簿ニ記入セラレザルモノトス
本條ノ證明トハ蓋シ納税地ノ町村長又ハ市長ノ證明書ナラン之レ追テ命令ニ定メラルコ
ト、知ルベシ

第二十條 郡長市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間其ノ廳又ハ地方長

官ノ許可ヲ得タル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ縦覽ニ供スヘシ

註疏 郡長市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間其ノ廳即チ郡役所又ハ市役所、町、村役
場ニ於テ選舉人名簿ヲ人民ノ縦覽ニ供スルカ若クハ地方長官タル府縣知事ノ許可ヲ得タ
ル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ人民ノ縦覽ニ供セザルベカラズ其縦覽ヲ許ス所以ノモノハ次
條ノ申立ヲ爲スニトテ得セシメシメテ爲メナリ

第二十一條 選舉人選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタル

トキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ之ヲ郡市長ニ申立ルコトヲ得

註疏 脱漏トハ選舉人名簿ニ第十七條第四項ノ記載即チ選舉人ノ資格ヲ記載スルニ當リ
其選舉人ノ氏名、官位、職業、身分、住所、生年月、納稅額及納稅地等ヲ悉ク漏ラシテ
載セザルカ又ハ其或ル部分ノミヲ漏ラシテ載セザルトキノ如シ例ヘバ大和國彦ナル選舉
人ノ氏名身分職業住所等ノ記載アルモ生年月官位納稅額及ビ納稅地ヲ記載セザルトキノ
如シ誤載トハ例ヘバ大和國彦ト記載スヘキ氏名ヲ大和國五郎ト誤記シ又ハ納稅額百五拾
圓ト記載スヘキヲ百圓トカ二百五拾圓トカ誤記シタルトキノ如シ如斯ク選舉人名簿ニ脱
漏又ハ誤載アルコトヲ選舉人が發見シタルトキハ其申立書ヲ作り理由及ビ證憑ヲ具ヘテ
之ヲ郡市長ニ差出スヘキモノトス然ルトキハ其申立ヲ正當ナリトセバ決定ヲ以テ選舉人
名簿ヲ修正セラル、モノトス

第二十二條 選舉人正當ノ事故ニ因リ第十九條ノ手續ヲ爲スコト能ハ

スシテ選舉人名簿ニ登録セラレサルトキ亦前條ノ例ニ依ル

註疏 選舉人が其住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ其證明ヲ得テ十
月五日迄ニ其ノ住所地ノ市町村長ニ届出デザルベカラズ若シ此届出ヲ爲サザルトキハ其

ノ納稅ハ選舉人名簿ニ記載セラルベキ要件ニ算入セザルナリ然レモ其十月五日迄ニ届出
デントスルモ正當ノ事故例ヘバ其選舉人が公務ノ爲メ海外ニ旅行中ナルヲ以テ手續ヲ爲
ス能ハズシテ選舉人名簿ニ登録セラレザル如キハ事情悠諒スベキモノアルヲ以テ其理由
及ビ證憑ヲ具ヘテ郡市長ニ申立ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第二十三條 縦覧期限ヲ經過シタルトキハ前二條ノ申立ヲ爲スコトヲ

得ス

註疏 本條ハ選舉人名簿ノ縦覧期限ヲ經過シタルトキハ前二條ニ定メタル申立ヲ爲スコ
トヲ得ザル旨ヲ定メタルナリ選舉人名簿ノ縦覧期限ハ十一月五日ヨリ十五日間ニシテ此
期間ハ實ニ選舉人ノ名簿ニ對スル異議申立ノ餘地ヲ與ヘザルナリ

第二十四條 郡市長ニ於テ第二十一條第二十二條ノ申立ヲ受ケタルト

キハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之
ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉人名
簿ヲ修正シ其ノ由ヲ申立人及關係人ニ通知シ併セテ其ノ要領ヲ告示
スヘシ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ之ヲ申立人ニ通知
スヘシ

前項ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ郡長ハ其ノ由テ本人住所地ノ町
村長ニ通知スヘシ

註疏 本條ハ選舉人名簿ニ對スル異議申立ノ效果ヲ規定シタルナリ即チ郡市長ニ於テ選
舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコト若クハ正當ノ事故ニ因リ十月五日迄ニ住所ヲ有スル市
町村外ノ納稅ヲ住所地ノ市町村長ニ届出ツル能ハザルコトノ申立ヲ受ケタルトキハ其理
由及ビ證據ヲ審査シテ申立アリタル日ヨリ二十日內ニ其申立ヲ正當トスルカ又ハ不正當
トスル旨ノ決定ヲ爲サザルベカラズ其申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉人名
簿ヲ修正シテ其由ヲ申立人及ビ關係人ニ通知シ併セテ其要領ヲ告示セザルベカラズ若シ
モ其申立ヲ正當ナラズト決定シタルトキハ其由ヲ申立人ニ通知スベキモノトス
郡長ニ於テ右述ブル如ク名簿ヲ修正シタルトキハ名簿ノ副本ヲモ修正セシムル爲メ本人
住所地ノ町村長ニ通知セザルベカラズ

第二十五條 郡市長ノ決定ニ不服アル申立人及關係人ハ郡市長ヲ被告
トシ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ地方裁判所ニ出訴スル
コトヲ得

前項地方裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院

ニ上告スルコトヲ得

註疏 本條ハ前條郡市長ノ決定ニ不服アルトキ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ル旨ヲ定メタル
ナリ即チ郡市長ノ決定ニ對シ不服アル申立人及關係人ハ郡市長ヲ被告トシ決定ノ通知ヲ
受ケタル日ヨリ七日內ニ地方裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルナリ
第二項ノ規定ハ其地方裁判所ノ判決ニ不服アルトキ上訴スルコトヲ得ル旨ヲ定ム通常ノ
訴訟ナレバ地方裁判所ノ判決が第一審ナルトキハ第二審即チ控訴院ニ控訴シ控訴ノ判決
ニ不服ナルトキ大審院ニ上告スベキモノトス然レモ本條ノ上訴ハ控訴ヲ許サズシテ上告
ノミヲ許スニアリ故ニ事實ノ確定ハ地方裁判所ノ判決ト同時ニ確定シ只法律點ニ付大審
院ニ上告スルヲ得ルモノトス

第二十六條 町村長ハ十一月二十日ヨリ十二月十日迄ノ間ニ其ノ管理

ニ屬スル選舉人名簿ヲ郡長ニ送付スヘシ
前項名簿ノ送付ヲ受ケタル郡長ハ之ヲ調査シ其ノ修正スヘキモノハ
修正ヲ加ヘ十二月二十日迄ニ之ヲ町村長ニ返付スヘシ

註疏 選舉人名簿ノ正本ハ郡長ノ手許ニ存在スレモ副本ハ町村長ノ手許ニ存在スルガ故
ニ町村長ハ十一月二十日ヨリ十二月十日迄ノ間ニ其管理ニ屬スル選舉人名簿ヲ郡長ニ送

付スベキモノトス此送付ヲ受ケタル郡長ハ之ヲ調査シ其修正ヲ必要トスルモノハ修正ヲ加ヘ十二月二十日迄ニ其名簿ヲ町村長ニ返付スヘキモノナリ

第二十七條 選舉人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定ス

選舉人名簿ハ次年ノ選舉人名簿確定ノ日迄之ヲ据置クヘシ但シ確定判決ニ依リ修正スヘキモノハ郡市長ニ於テ直ニ之ヲ修正シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

前項ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ郡長ハ其ノ由テ本人住所地ノ町村長ニ通知シ副本ヲ修正セシムヘシ

天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ必要アルトキハ更ニ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

前項選舉人名簿ノ調製及其ノ期日、縦覧確定ニ關スル期日、期間等ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

註疏 選舉人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定スルガ故ニ其確定後ハ決シテ其名簿ニ記載シタル事項ヲ變更スベキニアラズサレモ裁判ノ確定判決ハ例外トシテ其確定名簿ヲ動カスノ效力アルモノトス即チ確定判決ニ依リ修正スベキモノハ郡市長ニ於テ直ニ之ヲ修正

シ其要領ヲ告示スベキモノトス而シテ其確定シタル選舉人名簿ハ次年ノ選舉人名簿確定ノ日迄之ヲ据置クベキモノトス

確定名簿ハ右述ブル如ク妄リニ變更スベカラズト雖モ確定判決ニ依リテハ修正スルコトヲ得ベキガ故ニ若シ之ヲ修正シタルトキハ郡長ハ其由テ本人住所地ノ町村長ニ通知シテ選舉名簿ノ副本ヲ修正セシムベキモノト知ルベシ

然ルニ若シ戰爭洪水地震海嘯等天災事變 爲メニ選舉人ノ確定名簿紛失シタル時ハ如何スベキヤト云フニ此場合ニ於テハ更ニ選舉人名簿ヲ調製スルノ外ナシ其調製ノ方法若クハ期日、縦覧確定ニ關スル期日期間等ハ行政命令ヲ以テ定メラルベキモノトス

第四章 選舉、投票及投票所

第二十八條 總選舉ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ少クトモ三十日前ニ之ヲ公布ス

註疏 總選舉トハ議員ノ任期滿チ又ハ衆議院議員ノ解散ヲ命セラレタルトキ全國同時ニ議員ヲ選舉スルコトヲ云フ其選舉ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ少クトモ三十日前ニ之ヲ公布セラルベキモノトス

第二十九條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ
投票ハ一人一票ニ限ル

註疏 本條ハ選舉ヲ爲ス方法ヲ規定シタルナリ即チ選舉ハ投票ニ依リテ之ヲ行フベキモノニテ其投票ヲ爲スハ選舉人一人ニ付一票ニ限ルモノトス故ニ一人ニテ數個ノ投票ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十條 投票所ハ市役所、町村役場又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ投票管理
者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

註疏 本條ハ投票ヲ爲ス投票所ノ位置ヲ定メタルナリ即チ投票所ハ市ナレバ市役所、町村ナレバ町、村役場ニ設クルヲ通則トス然レモ其他ノ場所ニ設ケントスルキハ地方長官ノ許可ヲ得テ投票管理者タル市町村長ノ指定シタル場所ニ設ケサルヘカラズ

第三十一條 投票管理者ハ選舉ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ投票所ヲ
其ノ投票區内ニ告示スヘシ

註疏 選舉人ニ向ツテ投票所ノ何レナリヤチ普ク知ラシムルハ必要ナルヲ以テ投票管理者タル市町村長ハ選舉ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ投票所ヲ其ノ投票區内ニ告示セザルヘカラズ

第三十二條 郡市長ハ各投票區内ニ於ケル選舉人中ヨリ三名以上五名
以下ノ投票立會人ヲ選任シ選舉ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本
人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ
投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ズ

註疏 本條ハ投票立會人ニ關スル規定ナリ立會人ハ一方ニ於テハ投票管理者ノ不都合ナキヲ監視シ一方ニ於テハ投票人ノ不都合ナキヤチ監視スル重大ナル職務ヲ有スルモノトス故ニ投票立會人ナキ選舉ハ無効ナリ而シテ此立會人ヲ選任スルハ郡市長ノ權内ニシテ郡市長ハ各投票區ニ於ケル選舉人中ヨリ三名以上五名以下ノ投票立會人ヲ選任シ選舉ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日ニハ必ズ投票所ニ參會セシムベキナリ

投票立會人ノ其職務ニ任ズルハ公義務ナレバ正當ノ事故例ヘバ病氣トカ若クハ旅行中トカ云ヘル如キ事ナクンバ其職ヲ辭スルコトヲ得ザルナリ

第三十三條 投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ

註疏 本條ハ投票所ノ開閉ノ時刻ヲ定メタルナリ午前七時ヨリ午後六時迄十一時間ノ長時間投票ヲ爲スヲ許スハ選舉人ノ便宜ヲ計リタルモノニテ夜中ニ開閉ヲ爲サルハ不正

チ行フノ弊ナカラシメンガ爲メナリ

第三十四條 選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票簿ニ捺印シ投票スヘシ

投票管理者ハ投票ヲ爲サムトスル選舉人ノ本人ナルヤ否ヲ確認スルコト能ハサルトキハ其ノ本人ナル旨ヲ宣言セシムヘシ其ノ宣言ヲ爲サハル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

註疏 選舉人が議員ノ選舉ヲ爲スガ爲メ投票ヲ爲スニハ代人ヲ以テスルコトヲ得ズ必ズ本人自ラ選舉ノ當日投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ上投票簿ニ捺印シテ投票ヲ爲スベキモノトス

投票管理者タル市町村長ハ投票ヲ爲サントスル選舉人ノ本人ナルヤ否ヲ確認スルコト能ハザルトキハ其選舉人が自己ヲ本人ナリト云フ時ハ其本人ナル旨ヲ宣言セシムベキモノトス若シモ其宣言ヲ爲サザルトキハ假令實際本人ナルニモセヨ投票ヲ爲スコトヲ得ザルナリ

第三十五條 投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付スヘシ

註疏 投票用紙トハ選舉人が議員ノ投票ヲ爲スガ爲メニ用ユル用紙是ナリ其用紙チハ選舉ノ當日投票所ニ於テ投票管理者ヨリ選舉人ニ交付スベキモノトス

第三十六條 選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

註疏 本條ハ選舉人が投票ニ記載スベキ事柄ヲ規定シタルナリ夫レ投票ニ記名投票ナルモノアリ又タ無記名投票ナルモノアリ單記ナルモノアリ連記ナルモノアリ記名投票トハ被選人ノ氏名ヲ記スルノミナラズ選舉人自身ノ氏名ヲ記スルモノ是ナリ舊選舉法ノ如キハ所謂記名投票ノ式ヲ採用シタルモノナリシガ本法ニ於テハ無記名投票ノ式ヲ採用シタルナリ即チ被選人ノ氏名ヲ記スルモ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ズ單記トハ被選人ノ氏名一人ヲ限リテ記載スルコト連記トハ被選人ノ數名ノ氏名ヲ連記スルコトヲ云フ本法ハ無記名投票ノ單記式ナリトス

選舉チシテ威迫若クハ情實等ニ依リ不正手段ナカラシメ公平誠實ニ才德兼備ノ賢良ヲ舉ゲシメントセバ記名投票ヲ以テセズ無記名投票ヲ以テスルヲ可トス之レ本條ノ改正アリタル所以ナリ

第三十七條 選舉人名簿ニ登録セラレサル者ハ投票スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登録セララルヘキ確定判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲシテ投票セシムヘシ

註疏 選舉人名簿ニ登録セラレザル者ハ縦令選舉權アルモ投票ヲ爲スコトヲ得ザルヲ原則トス然レモ選舉人名簿ニ登録セラレベキ確定判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者アルトキハ投票管理者タル市町村長ハ之ヲシテ投票セシメザルベカラズ

第三十八條 選舉人名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セザルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者又前項ニ同シ

註疏 選舉人名簿ノ確定シタルトキハ之ヲ變更スベカラザルハ勿論ナレモ其名簿ニ登録セラレタル者ト雖モ選舉ノ當時選舉權ヲ有セザルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ザルナリ又タ選舉名簿ニ登録セラレ且ツ選舉ノ當時選舉權ヲ有スルモ投票紙ニ自ラ被選舉人ノ何人タルコトヲ書スル能ハザル者ハ是亦投票ヲ爲スコトヲ得ザルナリ

第三十九條 投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル町村ノ選舉人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

第一項ニ掲クル者ニ於テ異議アル町村ノ選舉人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

註疏 本條ハ投票ノ拒否ニ付テノ決定及ヒ假投票ノ事ヲ規定シタルナリ夫レ選舉人ノ投票ヲ爲スニ當リ之ヲ許スベカラザルヤ否即チ投票ノ拒否ヲ決スルハ投票管理者ノ任ニシテ投票管理者ハ立會人ノ意見ヲ聽キ而シテ其拒否ヲ決定スベキモノトス然レモ其決定ヲ受ケタル町村ノ選舉人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ投票ヲ爲サシムベキモノトス投票ハ選舉人ヲシテ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其氏名ヲ記載シテ投函スベキモノトス本條第四項ノ規定ハ投票ノ拒否ヲ決定シタル投票管理者又ハ其拒否ニ付テ立會人トシテ意見ヲ徴セラレタル者が異議アル町村ノ選舉人ニ投票ヲ爲サントスルトキハ是亦假ニ投票ヲ爲スベキモノニテ其投票ハ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其氏名ヲ記載シテ投函スベキモノトシ投票管理者ハ選舉事務ニ干渉スルヲ以テ被選舉權ヲ有セザルモ選舉權ハ素

リ之ヲ有ス故ニ投票ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第四十條 投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ由ヲ告ケテ投票所ノ入口ヲ鎖シ投票所ニ在ル選舉人ノ選舉結了スルヲ待テ投票函ヲ閉鎖スヘシ

投票函閉鎖後ハ投票スルコトヲ得ス

註疏 本條ハ投票所ノ閉鎖ヲ規定シタルナリ投票所ハ午後六時ニ閉ツベキモノナルヲ以テ其時刻ニ至リタルトキハ投票管理者ハ其由ヲ選舉人及ビ投票立會人等其投票所ニ在ル者ニ告ゲテ投票所ノ入口ヲ鎖シ投票所ニ在ル選舉人ニ限り其投票ヲ爲カシシ其投票結了スルヲ待テ投票函ヲ閉鎖スベキモノトス
一旦投票函ヲ鎖シタルトキハ其後ニ於テハ如何ナル事情アルモ投票ヲ爲スコトヲ許サザルナリ

第四十一條 投票管理者ハ投票録ヲ作り投票ニ關スル顛末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

註疏 投票録トハ選舉人ノ投票ニ關スル一切ノ顛末ヲ記載スベキモノニシテ之ヲ作成スル權アル者ハ投票管理者ニシテ投票管理者ハ投票立會人ト共ニ之ニ署名セザルベカラズ

署名トハ自己ノ氏名ヲ自身ニ記載スルコトヲ云フ

第四十二條 町村ニ於テハ投票管理者ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日迄ニ投票函、投票録及ビ選舉人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘシ

註疏 投票ヲ結了シタルトキハ町村ニ於テハ投票管理者タル町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ヲ結了シタル日ノ翌日迄ニ其投票ノ入りアル投票函、投票録及ビ選舉人名簿ヲ開票管理者タル郡長ニ送致スヘキモノトス

第四十三條 島嶼其他交通不便ノ地ニシテ前條ノ期日ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アルトキハ地方長官ハ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ開票ノ期日迄ニ其ノ投票函、投票録及選舉人名簿ヲ送致セシムルコトヲ得

註疏 本條ハ交通ノ不便ニシテ投票ノ翌日迄ニ投票函等ヲ送致スル能ハザルトキ地方長官ノ適宜ヲ以テ投票期日ヲ定メ得ルコトヲ定メタルナリ之レ必竟便宜上ノ規定ナルヲ以テ投票ノ翌日迄ニ投票函等ヲ開票管理者ニ送致シ得ル場合ナルトキハ本條ノ規定ヲ適用セザルヤ勿論ナリ

第四十四條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ選舉長ニ其ノ由ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ選舉長ハ更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ但シ其ノ期日ハ少クトモ五日前ニ投票區内ニ告示セシムヘシ

註疏 天災トハ洪水海嘯地震火事ノ如キヲ云ヒ避クベカラザル事故トハ戰爭、一揆若クハ惡疫流行シテ交通遮斷ヲ行ヒタルトキノ如シ以上ノ事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得ザルカ又ハ投票ノ結果悉ク無効投票ノミナルカ將タ得票ノ最多數ニシテ當選人タルコトヲ得ベキ定數ニ達セザルトキノ如キハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルモノナルヲ以テ投票管理者タル市町村長ハ選舉長ニ其由ヲ届出ツベキモノトス此場合ニ於テハ選舉長タル地方長官ハ更ニ期日ヲ定メテ投票ヲ行ハシムヘク又其期日ハ少クトモ投票ノ日ヨリ五日前ニ投票區ニ告示スベキモノトス

第四十五條 同一選舉區ニ於テ同時ニ二人以上ノ議員ヲ選舉スルトキハ選舉ノ種類如何ニ拘ハラズ第二十九條及ヒ第三十六條ノ例ニ依ル註疏 同一選舉區ニ於テ同時ニ二人以上ノ議員ヲ選舉スルトキハ其郡部ナルト市部ナル

トニ關セズ又タ選舉ノ種類總選舉ナルト將タ前條ニ依リ更ニ期日ヲ定メテ投票ヲ行フモノタルトニ關セズ投票ハ一人一票ヲ限リ選舉人自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ投票用紙ニ記載シテ選舉人自身ノ氏名ヲ記セズ以テ其投票ヲ投票函ニ投シテ投票スベキモノトス然ルトキハ其當選ハ當選人タル得票ヲ得タル者ヲ以テ最多數ヲ得タル者ヨリ順次ニ之ヲ定メラルベキナリ

第四十六條 何人ト雖選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ陳述スルノ義務ナシ

註疏 本條ノ規定ハ無記名投票ノ效果ヲ完カラシメンガ爲メノ規定ニ外ナラズ何トナレバ選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ他人ニ向ツテ陳述スルノ義務アリトセバ選舉人ハ其義務アルガ爲メニ威迫ニ悻ヤ情實ニ羈サレ良心ノ許ス者ヲ選舉スルノ公平ヲ保チ難クレバナリ而シテ本條ニ何人ト雖モトアルハ選舉人ノミニ此義務ヲ負ハシメザルノミナラズ廣ク選舉人外ノ者ト雖モ此義務ナシトノ意ヲ包含スルモノトス

第五章 投票所取締

第四十七條 投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テ

ハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

註疏 本條ハ投票管理者ガ投票所ノ取締ヲ爲スノ責任アルコト及ビ其責任ヲ盡クスガ爲メニ警察官吏ノ力ヲ藉ルコトヲ得ル旨ヲ示セルナリ即チ選舉ノ自由ハ之ヲ尊重セザルベカラサルヲ以テ投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ或ハ喧噪シテ靜肅ヲ害スル者若クハ他人ヲ勸誘シテ投票セシメントスル者等アル場合ノ如キハ投票所外ニ退出ヲ命ジ得ベキハ勿論兇器ヲ携帯シテ入場セントスル者アル場合ノ如キ若クハ投票函ヲ毀壞セントスル者アル場合ノ如キ其他本法上ノ罰則ニ觸ル行爲ヲ爲ス者アルトキノ如キハ相當處分ヲ必要トスルヲ以テ此場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得ルナリ

第四十八條 選舉人、投票所ノ事務ニ從事スル者、投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者及警察官吏ノ外投票所ニ入ルコトヲ得ス

註疏 投票所ハ選舉人ノ權利ヲ行フ所ナリ故ニ選舉人、投票所ノ事務ニ從事スル者、投票所ヲ監視スル職權アル者及ビ警察官吏ノ外投票所ニ入ルコトヲ得ザルナリ

第四十九條 投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧騒ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其他投票所ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所外ニ退出セシム

ハシ

註疏 本條モ投票所ノ秩序ヲ保タンガ爲メニ設ケタル規定ナリ演說討論ヲ爲スガ如キハ喧ニ靜謐ヲ害スルノミナラズ選舉人ノ自由ナル決心ヲ翻カシメ且爲メニ選舉ヲ迅速ニ實行スル能ハザルニ至ル又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ又ハ喧噪ニ涉ル如キハ皆投票所ノ秩序ヲ亂ルモノナレバ秩序維持權者タル投票管理者ハ之ヲ制止スベキハ勿論其命ニ從ハザルトキハ投票所外ニ退出セシムルコトヲ得ルナリ

第五十條 前條ニ依リ投票所外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票所閉鎖後ハ此ノ限ニ在ラス

註疏 前條ノ規定ニ依リ投票所ノ秩序ヲ紊ルガ爲メニ投票所外ニ退出セシメラレタル者ハ各選舉人ノ投票ヲ終リタル最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得ルナリサレハ投票所閉鎖後ハ投票ヲ爲スコトヲ許サズ故ニ各選舉人ノ投票ガ投票所ノ閉鎖時刻前ニ終リ閉鎖時刻迄ニ若干ノ時間ヲ余ストキニ非ザレバ退出セシメラレタル選舉人ハ到底投票ヲ爲スノ余地ナカラン

第六章 開票及開票所

開票及開票所

第五十一條 開票所ハ郡市役所又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ開票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

註疏 開票所トハ投票函ヲ開キ投票ノ點檢ヲ爲ス所トス開票ニ關スル事務ハ開票管理者タル郡市長ノ擔任スル所ニシテ郡ニ在テハ郡役所、獨立シタル市(人口三萬以上ノ市)ニ在テハ市役所又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ開票管理者ノ指定シタル場所ヲ以テ開票所ニ充ツルナリ

第五十二條 開票管理者ハ豫メ開票所ニ告示スヘシ

註疏 開票所ハ必ズシモ郡市役所ニ限ラズ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ開票管理者ノ指定シタル場所ニ設クルコトヲ得ベキモノナルヲ以テ其開票所ハ何レノ場所ニ設クルカハ豫メ告示セザレバ選舉人ハ之ヲ知ルニ由ナシ之レ本條ニ開票管理者ヲシテ告示ヲ爲サシムル所以ナリ

第五十三條 地方長官ハ各開票區内ニ於ケル選舉人中ヨリ三名以上七名以下ノ開票立會人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ但シ市ニ於テハ投票立會人ヲ以テ開票立會人トス
開票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ス

註疏 本條ハ開票ノ立會人ニ關スル規定ナリ市ニ於テハ投票立會人トナリシ者ヲ以テ開票立會人ト爲スト雖モ郡ニ於テハ投票所數ヶ所ニシテ投票立會人ノ數モ從テ數多ナルガ故ニ投票立會人ヲ以テ開票立會人ト爲シ難シ仍テ地方長官ハ各開票區内ニ於ケル選舉人中ヨリ三名以上七名以下ノ開票立會人ヲ選任シテ開票ニ立會ハシムルコト、爲シタルナリ

第五十四條 開票管理者ハ郡ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日、市ニ於テハ投票ノ翌日開票立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

註疏 投票函ヲ開クハ投票所ニ於テスベキニアラズ必ズ開票所ニ於テスベキ事ニシテ其開函ノ時期ハ本條ニ定メタル如ク郡ニ於テハ投票所區々ニシテ投票ノ翌日迄ニ開票管理若ニ送致セザルベカラザルモノナルヲ以テ開函ハ其開票所ニ到達シタル翌日市ニ於テハ投票ハ一區ニシテ特ニ投票函ヲ送致スルノ必要ナキヲ以テ投票ノ翌日開票立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スベキモノトス

第五十五條 前條ノ計算終リタルトキハ開票管理者ハ先ツ第三十九條第二項及第四項ノ投票ヲ調査シ開票立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如

何ヲ決定スヘシ
開票管理者ハ各投票所ノ投票ヲ混同シ開票立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

註疏 開票管理者ニ於テ投票函ヲ開函シ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタルトキハ假ニ爲シタル投票(封筒ニ入レ封緘シ其表面ニ選舉人ノ氏名ヲ記シタルモノ)ヲ調査シ開票立會人ノ意見ヲ聽キ其受理如何ヲ決定セザルベカラズ而シテ開票管理者ハ各投票所ノ投票ヲ混同シ開票立會人ト共ニ投票ヲ點檢セザルヲ得ズ

第五十六條 選舉人ハ其ノ開票所ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

註疏 開票ノ參觀ヲ爲スコトヲ得ルモノハ選舉人ニシテ選舉人ヲ除キテハ參觀ヲ爲スコトヲ得ズ蓋シ法律ガ選舉人ノ參觀ヲ許スハ開票ニ關係スル吏員ノ不正ノ所爲ナカラシメソガ爲メニ監視セシムルノ利益アルニ據ランカ

第五十七條 投票ノ效力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ開票管理者之ヲ決定スヘシ

註疏 投票ノ效力トハ其投票ノ有效ナルヤ將タ無効ナルヤヲ云フ投票ノ有效無効ヲ決スルハ開票管理者タル郡市長ノ任ニシテ開票管理者ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ之ヲ決定ス

ベキモノトス

第五十八條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用井サルモノ
- 二 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ
- 三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

註疏 本條ハ投票ノ無効ナル場合ヲ列舉シタルナリ成規ノ用紙トハ選舉ノ當日投票管理者ヨリ選舉人ニ交付スル一定ノ用紙ヲ云フ此用紙ヲ用ヒズシテ自家所用ノ白紙又ハ野紙等ヲ用ユルコトヲ許サンカ或ハ被選人ノ囑託ヲ容レ又ハ他人ノ勸誘ニ應ジテ豫メ投票セント欲スル者ヲ記載シテ投票所ニ持來リ投票スルコトナシトセズ斯クテハ選舉ヲシテ公平ナラシムル能ハザルノミナラズ區々ノ用紙ヲ用ユル爲メ其被選人ノ誰タルヲ分明ニ知リ難キコトモアラソ之ノ第一號ノ規定アル所以ナリ

投票ハ一票一人ニ限り被選舉人一名ノ氏名ヲ記載スベキモノナルニ二人以上ノ被選舉人

ヲ記載シタルトキハ其當選者タルベキ有效ノ被選人ハ何人タルヤ區別シ難キヲ以テ若シ
一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルトキハ其投票ハ無効ナリ
被選人ノ何人タルヤヲ確認シ難キモノハ選舉ノ目的ヲ達スル能ハザルモノナルヲ以テ其
投票ヲ無効トス

投票ハ被選舉權アル者ノ氏名ヲ記載スレバ即チ有效ナル投票ナリト雖モ被選舉權ナキ者
ヲ其投票ニ記載スルモ其投票ノ無効タルベキハ勿論ナリ何トナレバ當選人タルヘキ資格
アルモノハ被選舉權アル者ニ限り被選舉權ナキ者ハ縱令投票シタレバ逆ニ選舉權ヲ有スベ
キ理ナクレバナリ之レ第四號ノ規定アル所以ナリ

投票紙ニハ被選舉人ノ氏名ノ外選舉人ノ氏名ト雖モ記載スベキモノニアラズ故ニ被選舉
人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ及ビ被選舉人ノ氏名ヲ記セズ他事ノミヲ記載シタル
モノハ共ニ投票タルノ效ナシ然レモ被選舉人ノ氏名ノ外其被選舉人ノ官位、職業、身分、
住所又ハ敬稱ヲ記入シタルモノハ敢テ無効ト云フベカラズ何トナレバ同姓同名ノ異人至
ク無シト云フベカラザレバ其被選人ノ何人タルヲ識認セシムルニ便セン爲メ官位、職業、
身分、住所等大ニ必要ナルコトアレバナリ敬稱トハ何誰殿又ハ何誰君ト云ヘル如キ
ヲ云フ

第五十九條 投票ハ有效無効ヲ區別シ議員ノ任期間開票管理者ニ於テ 之ヲ保存スヘシ

註疏 投票ヲ爲シタル後ト雖モ其投票ハ有效投票ニテモ將タ無効投票ニテモ議員ノ任期
間保存スベキモノニシテ決シテ其期間内ハ燒棄スルコトヲ得ズ之レ選舉訴訟當選訴訟ノ
提起セラル、ニ當リ其調査ニ便センガ爲メナリサレバ開票管理者ハ有效投票ト無効投票
トヲ區別シ議員ノ任期間ハ必ズ保存セザルベカラズ

第六十條 開票管理者ハ開票録ヲ作り開票ニ關スル顛末ヲ記載シ開票 立會人ト共ニ署名シ投票録ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

註疏 投票管理者ノ投票録ヲ作ルト同様に開票管理者ハ開票録ヲ作り開票ニ關スル顛末ヲ
記載シ開票立會人ト共ニ之ニ署名シテ投票録ト共ニ議員ノ任期間保存セザルベカラズ其
保存ノ理由ハ前條ト均シク選舉訴訟當選訴訟ニ便センガ爲メナリ

第六十一條 投票ノ點檢終リタルトキハ開票管理者ハ直ニ其ノ結果ヲ 選舉長ニ報告スヘシ

註疏 開票管理者ハ各投票所ノ投票ヲ混同シ開票立會人ト共ニ投票ヲ點檢スベキモノナ
ルガ故ニ其點檢ヲ終リタルトキハ直ニ其結果ヲ選舉長タル地方長官ニ報告スベキモノト

ス結果トハ甲ノ得票何點乙ノ得票何點内ノ得票何點ト其得票ノ大小及ヒ無効ニ屬シタル
投票何票ト云フ事柄ノ如シ

第六十二條 第四十四條ノ規定ハ但書ヲ除キ開票ニ之ヲ準用ス

註疏 本條ハ天災其他避クベカラザル事故ニ因リ開票ヲ行フコトヲ得ザルトキ又ハ更ニ
開票ヲ行フノ必要アルトキハ開票管理者ハ選舉長ニ其由ヲ届出ヅベシ此場合ニ於テハ選
舉長ハ更ニ期日ヲ定メ開票ヲ行ハシメラル、コトヲ規定シタルナリ

第六十三條 開票所ノ取締ニ付テハ第五章ノ規定ヲ準用ス

註疏 開票所ノ取締ニ付テハ第五章即チ投票所取締ニ付テ規定シタル法條ヲ準用スルモ
ノトス

第七 選舉會

第六十四條 選舉會ハ選舉長ノ指定シタル場所及日時ニ於テ之ヲ開キ

第六十一條ノ報告書ヲ調査ス

選舉ノ一部無効トナリ更ニ選舉ヲ行ヒタル場合ニ於テ第六十一條ノ
報告ヲ受ケタルトキハ選舉長ハ選舉會ヲ開キ他ノ開票管理者ノ報告

書ト共ニ更ニ之ヲ調査スヘシ

註疏 選舉會ハ開票管理者ノ報告書ヲ審査シ以テ當選人ヲ定ムルニアリ然ルニ該選舉會
ヲ開クハ何人ノ任ナリヤト云フニ選舉長タル地方長官ニ於テ其開會ノ場所及ヒ日時ヲ指
定シテ開會スベキモノトス

本條第二項ハ選舉ノ一部無効トナリ更ニ選舉ヲ行ヒタル場合ニ於ケル選舉會ノ如何ヲ規
定シタルナリ選舉ノ一部無効トナルトハ某投票所ニ於ケル投票ノ全部無効ナリシ場合ノ
如シ假令某投票所ニ於テノ投票全部無効ナリトスルモ他ノ投票所ニ於テ全然無効タルコ
トナクンバ其部分ニマデ無効ノ影響ヲ及ボスベキモノニアラズ之レ即チ選舉ノ一部無効
ナリ

第六十五條 選舉長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

註疏 本條ハ選舉會ノ場所及ヒ日時ヲ告示スベキコトヲ定ム選舉會ノ開會ハ公開ニシテ
秘密ニアラズ從テ選舉人ノ參觀ヲモ許スベキモノナルヲ以テ其場所ノ何レナリヤ又タ日
時ハ何月何日ノ午前何時ヨリスルカヲ豫メ告示スベキモノトス

第六十六條 選舉長ハ各選舉區内ノ選舉人中ヨリ三名以上七名以下ノ

選舉立會人ヲ選任シ選舉會開會ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本

人ニ通知シ選舉會ノ當日選舉會ニ參會セシムヘシ

選舉立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス、

註疏 選舉會ヲ開クニハ立會人ナクシテ之ヲ開クコトヲ得ズ故ニ選舉長ハ各選舉區内ノ選舉人中ヨリ三名以上七名以下ノ選舉立會人ヲ選任シ選舉會開會期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知シテ選舉會ニ參會セシメザルベカラズ

サレバ選舉立會人トシテ選任セラレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ザルナリ

第六十七條 選舉長ハ選舉錄ヲ作り選舉會ニ關スル顛末ヲ記載シ選舉立會人ト共ニ署名シ第六十一條ノ報告書ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

註疏 選舉錄ハ選舉會ニ關スル一切ノ顛末ヲ掲グベキモノニシテ選舉長之ヲ作り選舉立會人ト共ニ署名シ開票管理者ノ報告書ト共ニ保存スベキモノトス其保存期間ハ議員ノ任期間ニシテ其任期ヲ經過シ再選舉ノ時ニ至レバ最早ヤ保存ノ必要ナシ

第六十八條 選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

註疏 選舉人ハ開票所ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得ルト同様選舉會ニモ參觀ヲ求

ムルコトヲ得ルナリ乃チ參觀ヲ許スハ選舉會ノ公行ヲ表スルモノニシテ選舉人ニ非ザル者ニ選舉會場ニ入込ムコトヲ許スハ選舉場ニ混雜ヲ極ムル恐アリ故ニ選舉人ニ非ザル者ニ參觀ヲ許サザルナリ

選舉人ト雖選舉會場甚ダ狹隘ニシテ數多ノ參觀ヲ許シ難キトキハ其入場ニ制限ヲ加フルハ勿論選舉會場ノ取締ニ背クトキハ入場ヲ許サズ又退場ヲ命ズルコトアルベシ

第六十九條 選舉會場ノ取締ニ付テハ第五章ノ規定ヲ準用ス

註疏 本條ハ選舉會場ノ取締ニ關スル規定ナリ第五章ニ於テ已ニ説述シタルヲ以テ茲ニ贅セズ

第八章 當選人

第七十條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選舉區内ノ議員定數ヲ以テ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ當選人ニシテ當選證書付與前ニ於テ其ノ當選ヲ辭シ若ハ死亡シタルトキ又ハ當選證書付與ノ前後ヲ問ハス選舉ニ關スル罰則ニ依

リ處罰セラレタル結果當選無効トナリタルトキ又ハ被選舉權ヲ有セサル爲當選無効トナリタルトキハ前項ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ得票ノ順位ニ依リ之ヲ補充ス

前項ノ場合ヲ除クノ外選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ結果ニ依リ必要ナルトキハ本條ノ例ニ依リ更ニ當選人ヲ定ム

第七章ノ規定ハ前二項ノ場合ニ於テモ亦之ヲ適用ス

本條ニ依リ當選人ヲ定ムルニ當リ得票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤シテ其ノ順位ヲ定ム

註疏 本條ハ當選人タルコトヲ確定スル標準ヲ定ムタルナリ抑モ當選人タルニハ被選舉權ヲ有セザルベカラザルハ勿論有效投票ノ最多數ヲ得タル者ナラザルベカラズ而シテ假令有效投票ノ最多數ヲ得タル者ニテモ其選舉區内ノ議員定數ヲ以テ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票ナキハ當選人ト爲スコトヲ得ザルナリ若シ以上ノ得票アリテ當選人タル資格ヲ備ヘナガラ當選證書付與前ニ於テ死亡シ又ハ當選ヲ辭シタルトキ若シハ當選證書ノ付與前後ヲ問ハズ選舉ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラレタル結果當選無効トナリタルトキ又ハ被選舉權ヲ有セザル爲メ當選無効ト

ナリタルトキハ得票ノ順位ニ依リ右述ベタル五分ノ一以上ノ得票者ヲ以テ補充セラレ、モノトス

本條第二項ノ場合ヲ除クノ外選舉訴訟又ハ當選訴訟ノ結果ニ依リ必要ナルトキハ本條ノ例ニ依リ更ニ當選人ヲ定ムルヲ以テ此場合ニ於テハ選舉會ヲ必要トス

末項ノ規定ハ當選人ヲ定ムルニ當リ得票ノ相同キ場合ハ如何スベキヤヲ定メタリ即チ此場合ニ於テハ年長者ヲ以テ當選人ト爲ス然レモ同年月ナルトキハ何レヲ年長者ト云フベカラザルガ故ニ抽籤シテ其順位ヲ定メザルベカラズ

第七十一條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ之ヲ當選人ニ告知スヘシ

註疏 當選人ノ何人タルヤ明瞭ニ定リタルトキハ選舉長ハ之ヲ其當選人タル本人ニ告知セザルベカラズ蓋シ此告知ヲ發スルハ其者が當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ届出シメンガ爲メナリ

第七十二條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ選舉長ニ届出シヘシ、一人ニシテ數選舉區ノ當選ヲ承諾スルコトヲ得ス

註疏 當選人が當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其當選ヲ承諾スルヤ否ヲ選舉長ニ届出デザルベカラズ若シ届出チ二十日以内ニ爲サザルトキハ次條ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做サル、ナリ然レモ其當選ヲ承諾スルニモセヨ一人ニシテ數選舉區ノ當選ヲ承諾スルコトヲ得ズ若シ數選舉區ノ當選ヲ承諾スルコトヲ得ルトセンカ人口十三萬ニ付一人ノ議員ヲ選出スルト云フ立法ノ標準ヲモ滅却シ一人ニシテ人口二十萬若クハ三十萬以上ヲ代表スルコト、ナリ選舉區ヲ劃シ議員ノ定數ヲ設ケタル趣旨ニ反スルニ至ルベシ之レ本條第二項アル所以ナリ

第七十三條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サザルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

註疏 本條ハ前條ト關聯シタル規定ナリ當選人カ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サザルトキハ法律上其當選ヲ辭シタルモノト看做スナリ之レ他ナシ當選ヲ承諾スルモノナリセバ届出ヲ爲スベキ告知ヲ受ケタルニモ拘ハラズ其届出ヲ爲サズシテ漫然二十日ノ日子ヲ經過セシムルノ故ナケレバナリ

第七十四條 當選人ナキトキハ地方長官ハ選舉ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ告示シ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

當選人議員ノ定數ニ達セザルトキハ地方長官ハ前項ノ例ニ依リ其ノ不足ノ員數ニ對シ選舉ヲ行ハシムヘシ
第七十條第二項及第三項ノ場合ニ於テ當選人ナキトキ亦前二項ニ同シ

第八十條及第八十二條ノ出訴期間ハ本條ノ選舉ヲ行フコトヲ得ズ其ノ出訴アリタルトキ裁判確定スルニ至ル迄ノ間亦同シ

註疏 當選人ナキカ當選人議員ノ定數ニ達セザルトキハ地方長官ハ選舉ノ期日ヲ定メ更ニ選舉ヲ行ハザルベカラズ此場合ニ於テハ豫メ其期日ヲ告知スベキモノトス尤モ當選人議員ノ定數ニ達セザルトキハ其不足ノ員數ニ對シテ選舉ヲ行フノミニシテ當選人ヲ無效シトシテ更ニ選舉ヲ行フノ義ニアラズ

然レモ選舉訴訟及ビ當選訴訟ノ出訴期間内ハ本條ノ選舉ヲ行フコトヲ得ズ之レ他ナシ訴訟ノ提起アリタルトキハ其裁判ノ結果當選人アルニ至リ又ハ當選舉議員ノ定數ニ達シタルモノトシ更ニ選舉ヲ行フヲ要セザルコトアレバナリ此故ニ該選舉ハ當ニ右訴訟ノ出訴期間ノミナラズ其訴ノ提起アリタルトキハ其裁判確定スルニ至ルマデ之ヲ行フコトヲ得

ザルナリ

當選人

第七十五條 當選人當選ヲ承諾シタルトキハ地方長官ハ直ニ當選證書ヲ付與シ其ノ氏名ヲ管内ニ告示シ且之ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

註疏 當選證書ハ其者が議員ニ當選シタルコトヲ證明スベキ證書ナレバ當選人が當選ヲ承諾シタルトキハ地方長官ハ直ニ之ヲ其本人ニ付與シ其者ノ氏名ヲ一面管内ニ告示スルト共ニ他面ニ於テハ其旨ヲ内務大臣ニ報告セザルベカラズ

第七十六條 選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ判決ニ依リ選舉若ハ當選無効トナリタルトキ又ハ當選證書ヲ付與シタル後選舉ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラレタル結果當選無効トナリタルトキハ地方長官ハ其ノ當選證書ヲ取消シ之ヲ管内ニ告示スヘシ

註疏 本條ハ選舉若クハ當選無効トナリタルトキ地方長官ハ當選證書ヲ取消シ管内ニ告示スベキコトヲ定メタルナリ即チ選舉訴訟又ハ當選訴訟ノ提起アリテ其判決ニ於テ選舉若クハ當選其モノガ無効トナリタルトキ又ハ既ニ當選證書ヲ付與シタル後ニ於テ其當選人選舉ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラレタル結果當選無効トナリタルトキハ地方長官ハ其ノ當選證書ヲ取消シ管内ニ告示セラル、ナリ蓋シ當選ノ無効トナリタルトキハ勿論選舉ノ無効トナリタルトキハ選舉ノ結果當選ノ定マルモノナルガ故ニ均シク其當選ヲモ

無効トセザルベカラザルヲ以テナリ

第九章 議員ノ任期及補闕選舉

第七十七條 議員ノ任期ハ總選舉ノ期日ヨリ四箇年トス但シ議會開會中ニ任期終ルモ閉會ニ至ル迄在任ス

註疏 本條ハ議員ノ任期ヲ規定シタルナリ即チ議員ノ任ニ在ル期間ハ四ヶ年ニシテ其起算點ハ總選舉ノ日ニアリ故ニ總選舉ノ期日ヨリ起算シ四ヶ年ヲ經過シタルトキハ議員タル資格ハ當然之ヲ失フモノトス然レモ第二項ハ例外トシテ議會開會中ニ右ノ任期終ルモ其議會ノ閉會ニ至ル迄在任スルコトヲ定メタリ蓋シ議會開會中ニ任期滿キ在任スベカラズトセバ緊急ナル國政ヲモ速ニ審議スル能ハズシテ國家ノ爲メニ頗ル不利ヲ醸ス之レ任期中終ルモ議會ノ閉會ニ至ル迄在任スト定メタル所以ナリ

第七十八條 選舉ノ日ヨリ一箇年以内ニ議員ノ闕員ヲ生シタルトキハ第七十條ノ例ニ依ル

前項ノ場合ニ於テ當選人ナキトキ又ハ選舉ノ日ヨリ一箇年以後ニ議員ノ闕員ヲ生シタルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ命ニ依リ其ノ命ヲ

受ケタル日ヨリ二十日以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

前項ノ補闕選舉ノ期日ハ地方長官豫メ之ヲ告示スヘシ

註疏 第一項ノ規定ニ依レバ選舉ノ日ヨリ一箇年以内ニ議員ノ死亡、任官、辭職等ニ依リ

闕員ヲ生シタルトキハ第七十條ノ例ニ依リ當選者ヲ定ムルモノトス第二項ハ第一項ノ場

合ニ於テ當選人ナキトキ又ハ選舉ノ日ヨリ一ケ年以後ニ議員ノ闕員ヲ生シタルトキハ地

方長官ハ内務大臣ノ命ニ依リ其命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ補闕選舉ヲ行フトノ義

ナリ此補闕選舉ハ地方長官豫メ其期日ヲ告示スベキモノトス

第七十九條 補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

註疏 議員ノ任期ハ四ケ年ナレバ補闕議員ヲシテ亦四年ノ任ニ在ラシメバ任期一定セズ

非常ノ混雜ヲ招キ至ルベシ之ノ前任者ノ殘任期間在任スト定メラレタル所以ナリ

補闕議員ハ前任者ノ殘任期間在任スルガ故ニ前議員ノ席次ヲ得前議員ノ部屬ニ入ルベキ

ハ勿論ナリ

第十章 選舉訴訟及當選訴訟

第八十條 選舉ノ效力ニ關シ異議アル選舉人ハ選舉長ヲ被告トシ選舉

ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得

註疏 本條ハ選舉ノ效力ニ關シ異議アル選舉人ヨリ選舉長ヲ被告トシ訴訟ヲ提起スルヲ

得ルコト換言スレバ選舉訴訟ノ如何ニ付規定セラレタルナリ此訴ニ二箇ノ原因アリ一ハ

選舉官吏吏員ノ不注意若クハ惡意ヨリ生ズル所ノモノ一ハ當選人自ラ若クハ其關係者ノ

所爲ヨリ生ズル所ノモノ是ナリ前者ハ投票ノ計算、立會人ノ闕席、投票所ノ開閉、投票

ノ受理不受理、選舉ノ干涉等ヲ包含シ後者ハ威迫、暴行、賄賂等ヲ包含ス此等ハ多ク刑法

及ビ本法ノ罰則ニ於テ相當ノ制裁ヲ受クト雖亦選舉長ヲ相手取り選舉ノ日ヨリ三十日以

内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得ルナリ而シテ其控訴院ノ判決ニ不服アルトキハ一般ノ訴

訟手續ニ從ヒ大審院ニ上告スルコトヲ得ルモノトス

第八十一條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ當選ノ結果ニ異動

ヲ及ボスノ虞アル場合ニ限り、裁判所ハ其ノ選舉ノ全部若ハ一部ノ無

效ヲ判決スヘシ

當選訴訟ニ於テモ其ノ選舉前項ノ場合ニ該當スルトキハ裁判所ハ其

ノ全部若ハ一部ノ無效ヲ判決スヘシ

註疏 本條第一項ハ選舉訴訟ノ效力ヲ定メタルナリ即チ前條ノ規定ニ從ヒ爲ス所ノ訴訟ニシテ選舉ノ規定ニ違背スルコトアルモ當選ノ結果ニ何等ノ異動ヲ及ボスノ恐ナキトキハ其選舉ノ全部若クハ一部ノ無効ヲ言渡サル、コトナシ例ハ開票若クハ選舉會ニ參觀ヲ求メタルニモ拘ハラズ開票管理者又ハ選舉長ハ故ナク之ヲ拒絕シタリトセヨ明カニ選舉ノ規定ニ背クモノナルモ當選ノ結果ニハ異動ヲ及ボスコトナキヲ以テ其選舉ノ全部ハ勿論一部ト雖無効ノ言渡ヲ受クルコトナシ之ニ反シ當選ノ結果ニ異動ヲ及ボスノ虞アルトキハ裁判所ハ其選舉ノ全部若クハ一部ノ無効ヲ言渡サル、ナリ例ハ當選人ガ開票管理理者及ビ開票立會人ニ賄賂ヲ贈リ虚偽ノ投票ト直正ノ投票トヲ交換シタルノ形迹アルトキ若クハ投票所ノ閉鎖ヲ午後六時以後ニ於テ爲シタル爲メ一應棄權ヲ爲シタリシ若干ノ選舉人投票ヲ爲シタルニ因リ某候補者ハ議員タルノ資格ヲ失ヒ却テ反對ノ地位ニ立ツ某候補者ヲシテ當選人トラシムルニ至リシトキノ如シ

第二項ハ次條ニ規定シタル當選訴訟ノ場合ニ於テモ其選舉ガ右述ベタル第一項ノ場合ニ該當スルトキハ裁判所ハ其全部若クハ一部ノ無効ヲ言渡スコトアリトノ義ナリ

第八十二條 當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被告トシ第七十五條ノ氏名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ

出訴スルコトヲ得但第七十條第一項但書ニ定メタル得票ニ達シタリトノ理由ニ由リ出訴スル場合ニ於テハ選舉長ヲ被告トシ第七十四條ノ告示ノ日ヨリ三十日以内ニ出訴スヘシ

前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得

註疏 本條ハ當選ヲ失ヒタル者ヨリ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキ爲ス所ノ訴即チ當選訴訟ノ事ヲ規定シタルナリ此訴ハ當選人ヲ被告トシテ提起スベキモノニテ其出訴期限ハ地方長官ガ當選人ノ氏名ヲ管内ニ告示シタル當日ヨリ起算シ三十日以内ニ爲スベキモノトス尤モ本法第七十條第一項ノ但書ニ定メタル得票（其ノ選舉區内ノ議員定數ヲ以テ選舉人名簿ニ記載ラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票ヲ云フ）ニ達シタリトノ理由ヲ以テ出訴スル場合ニ於テハ選舉長ヲ被告トシ地方長官ガ當選人ナキ爲メ更ニ選舉ヲ爲ス旨ノ告示ヲ爲シタル當日ヨリ三十日以内ニ起訴セザルベカラズ右二箇ノ場合ニ於ケル訴ハ控訴院ニ提起スベキモノニシテ其控訴院ノ判決アリタルトキ不服ナレバ大審院ニ上告スルコトヲ得ルナリ

第八十三條 裁判所ハ選舉訴訟若ハ當選訴訟ヲ裁判スルニ當リ檢事ヲシテ口頭辯論ニ立會ハシムヘシ

註疏 本條ハ檢舉ヲシテ選舉訴訟又ハ當選訴訟ニ立會シムルコトヲ定メタルナリ凡ソ檢事ハ公益ノ代表官ナレバ刑事ノ訴訟ニアラザルモ或ル種ノ訴訟ニ於テハ其立會ヲ必要トス故ニ本法上ノ選舉訴訟當選訴訟ノ如キ國家立法ノ機關ニ重大ナル關係ヲ有スル事件ニ於テハ素ヨリ檢舉ノ立會ナカルベカラズ之レ本條ノ規定アル所以ナリ

第八十四條 裁判所ニ於テ選舉訴訟若ハ當選訴訟ヲ判決シタルトキハ其ノ判決書ノ謄本ヲ内務大臣ニ送付スヘシ若シ帝國議會開會中ナルトキハ併セテ之ヲ衆議院議長ニ送付スヘシ

註疏 本條ハ選舉訴訟又ハ當選訴訟ニ於テハ其判決書ノ謄本ヲ一面ニテ内務大臣ニ送付シ又タ議院ノ開會中ナルトキハ他面ニ於テ衆議院議長ニモ送付スベキコトノ特例ヲ定メタルナリ

第八十五條 原告人ハ訴狀ヲ提出スルト同時ニ保證金トシテ三百圓又ハ之ニ相當スル額面ノ公債證書ヲ供託スヘシ
原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用ヲ完納セサルトキハ保證金ヲ以テ之ヲ充當シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴ス

註疏 本條ハ保證金ノ供託及ビ裁判費用納付ノ事ヲ定ム即チ選舉訴訟又ハ當選訴訟ヲ提起スルトキハ原告人ハ訴狀ヲ提出スルト同時ニ保證金トシテ三百圓ヲ現金又ハ公債證書ヲ以テ供託スベシ而シテ原告勝訴ノ時ハ論ナキモ若シ敗訴シタルトキハ裁判ノ確定シタル日ヨリ七日間内ニ裁判費用ヲ完納セザルベカラザルヲ以テ若シ之ヲ完納セザリシナレバ右保證金ヲ以テ其裁判費用ノ納付ニ充當シ仍ホ不足スルトキハ追徴セラル、モノトス

第十一章 罰則

第八十六條 詐偽ノ方法ヲ以テ選舉人名簿ニ登録セラレタル者又ハ第三十四條第二項ノ場合ニ於テ虚偽ノ宣言ヲ爲シタル者ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
註疏 本條ハ選舉人ニ非ザル者選舉人タルニ必要ナル資格ヲ詐稱シ依リテ以テ選舉人名簿ニ登録セラレ又ハ選舉人タル旨ノ虚偽ノ宣言ヲ爲シタル者ヲ制裁センガ爲メニ設ケタ

第八十七條 選舉ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ一

- 月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢、物品、手形其ノ他利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者並供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者
 - 二 選舉ニ關シ酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ選舉會場、開票所若ハ投票所ニ往復スル爲船車馬ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ休泊料ノ類ヲ代辨シ及其ノ代辨ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者
 - 三 選舉ニ關シ選舉人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ誘導シタル者及其ノ誘導ニ應シタル者
- 前項ノ場合ニ於テ其ノ收受シタル物件ハ之ヲ沒收シ既ニ費用シタルモノハ其ノ價ヲ追徴ス

註疏 選舉ノ前ナルト將タ後ナルトヲ問ハズ本條第一項ノ各號ニ該當スル所爲アレバ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處セラレ、カ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處セラレ其收受シタル物件ハ官ニ沒收シ既ニ費用シタルモノハ其代金追徴セラレ、モノトス

第八十八條 左ノ各號ニ該當スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

- 一 選舉ニ關シ選舉人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者
- 二 選舉人ニ對シ往來ノ便ヲ妨ケ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ選舉權ノ行使ヲ妨害シ若ハ投票ヲ爲サシメタル者
- 三 選舉ニ關シ選舉人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ威逼シタル者

註疏 本條ハ選舉人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ又ハ往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ選舉權ノ行使ヲ妨害シ又ハ利害ノ關係ヲ利用シテ選舉人ヲ威逼シタル者ヲ制裁センガ爲メ設ケタル規定ナリ

第八十九條 選舉事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人及監視者選舉人ノ

投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ表示シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ表示シタル事實虛偽ナルトキ亦同シ

註疏 本條ハ選舉事務ニ關係アル官吏、吏員立會人及ビ監視者等ニ在テ選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ何人ナルヤヲ表示シタルトキ其者ヲ罰スル法條ナリ

第九十條 投票所又ハ開票所ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選舉人ノ投票ニ關涉シ又ハ被選舉人ノ氏名ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス法令ノ規定ニ依ラスシテ投票函ヲ開キ又ハ投票函中ノ投票ヲ取出シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

註疏 本條ハ故ナク選舉人ノ投票ニ關係シ又ハ被選舉人ノ何人タルヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者及ヒ法律ノ規定ニ從ハズシテ投票函ヲ開キ又ハ函中ノ投票ヲ取出シタル者ヲ罰スル規定ナリ

第九十一條 投票管理者、開票管理者、選舉長、立會人若ハ選舉監視者ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選舉會場、開票所若ハ投票所ヲ騷擾シ又ハ投票、投票

函其ノ他關係書類ヲ扣留、毀壞、奪取シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス

多衆ヲ嘯聚シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ輕禁獄ニ處ス其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ一月以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

註疏 本條ハ投票管理者、開票管理者、選舉長、立會人若ハ選舉監視者ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選舉會場、開票所若ハ投票所ヲ騷擾シ投票、投票函其他關係書類ヲ扣留、毀壞、奪取シタル者ヲ罰スル規定ナリ第二項ハ多衆ヲ嘯聚シ又ハ其情ヲ知テ嘯聚ヲ助ケタル者ヲ罰スルニ重キヲ以テシタルナリ

第九十二條 選舉人、議員候補者若ハ選舉運動者ヲ脅迫シ又ハ選舉會場、開票所、投票所ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ扣留、毀壞、奪取スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者第九十三條ノ物件ヲ携帯シタルトキハ各本條ニ一等ヲ加フ

註疏 本條ハ選舉人、議員候補者若ハ選舉運動者ヲ脅迫シ又ハ選舉會場、開票所、投票

所ヲ願極シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ扣留、毀壞、奪取スルノ目的ニテ多衆ヲ嘯聚シタル者ヲ罰スル規定トス

第九十三條 選舉人、議員候補者及選舉運動者ニシテ選舉ニ關シ銃砲、

槍戟、刀劍、竹槍、棍棒其ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ物件ヲ携帯シタル者ハ二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
警察官吏又ハ憲兵ハ必要ト認ムル場合ニ於テ前項ノ物件ヲ領置スルコトヲ得

註疏 本條ハ選舉人、議員候補者及選舉運動者ニシテ選舉ノ爲メニ銃砲、槍戟、刀劍、竹槍、棍棒等ヲ携帯シタルトキハ本條所定ノ刑罰ヲ受クルノミナラズ警官憲兵ハ必要ナリトスルトキハ其物件ヲ領置スルコトヲ得ルトノ義ナリ

第九十四條 前條記載ノ物件ヲ携帯シテ選舉會場、開票所若ハ投票所ニ

入りタル者ハ前條ノ例ニ依リ一等ヲ加フ

註疏 本條ハ選舉人、議員候補者及ビ選舉運動者ニシテ選舉ニ關シ銃砲、槍戟、刀劍、竹槍、棍棒ノ類ヲ携帯シテ選舉會場、開票所若ク投票所ニ入りタル者ヲ罰スル規定ナリ

第九十五條 選舉ニ關シ氣勢ヲ張ルノ目的テ以テ多衆集合シ若ハ隊伍

ヲ組ミテ往來シ又ハ煙火、篝火、松明ノ類ヲ用キ若ハ鐘鼓、法螺、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用ウル等ノ所爲ヲ爲シ警察官吏ノ制止ヲ受クルモ仍其ノ命ニ從ハサル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

註疏 本條ノ罪ヲ構成スルニハ三ヶノ要件ヲ具備セガベカラズ

第一 選舉ニ關シ氣勢ヲ張ルノ目的ナルコト

第二 多衆集合シ若ハ隊伍ヲ組ミ往來シ又ハ煙火、篝火、松明ノ類ヲ用キ若ハ鐘鼓、法

螺、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用ウル等ノ所爲ヲ爲シタルコト

第三 警察官ノ制止ヲ受ケ肯セザルコト

故ニ右要件ノ其一ヲ缺クトキハ犯罪ハ成立セザルナリ例ヘバ選舉ニ關シ氣勢ヲ張ルノ目的ニテ大鼓ヲ鳴ラシ又ハ喇叭ヲ吹キ隊伍ヲ組ミテ往來スルモ警察官吏ノ制止ヲ受クルニ當リ謹デ其命ニ從ヒ所爲ヲ中止シタルトキハ第三ノ要件ヲ備ヘザルモノナルヲ以テ其者ヲ罰スルコトヲ得ザルナリ

第九十六條 第八十九條乃至第九十五條ノ所爲ヲ爲サシムル目的ヲ以

テ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘

ラス人ヲ教唆シタル者ハ其ノ各條ニ依リ處斷ス但シ新聞紙、雜誌ニ在
リテハ仍ホ其ノ署名シタル編輯人ヲ處斷ス

註疏 本條ハ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其他ノ方法ヲ以テ第八十九條乃至第九
十五條ノ所爲ヲ爲サシメンガ爲メニ人ヲ教唆シタル者ヲ罰スル規定ナリ新聞紙雜誌ニ關
スルトキハ教唆ノミナラズ署名シタル編輯人ヲモ所罰スルモノトス

第九十七條 當選ヲ妨クルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張
札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス議員候補者ニ關シ虛偽ノ事
項ヲ公ニシタル者ハ六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ加
附ス新聞紙、雜誌ニ在リテハ前條但書ノ例ニ依ル

註疏 本條ハ議員候補者ニ關シ虛偽ノ事項ヲ公ニシタル者ヲ罰スル規定ナリ此犯罪ヲ構
成スルニハ左ノ三ヶノ條件ヲ要ス

- 甲 當選ヲ妨グルノ目的ナルコト
 - 乙 演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其他ノ方法ヲ以テ虛偽ノ事項ヲ公ニスルコト
 - 丙 議員候補者ニ關スルコト
- 故ニ右三條件ノ内其一ヲ缺クトキハ犯罪ヲ成立セズ

第九十八條 選舉人タルコトヲ得サル者ニシテ投票ヲ爲シタル者及氏
名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ
十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

註疏 本條ハ選舉權ナキ者又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者ヲ罰スル規定ナ
リ本條ニハ單ニ氏名ヲ詐稱シテトアリ他人ノ氏名ナルコトヲ表示スル明文ナキヲ以テ動
モスレバ自己ノ氏名ヲ詐稱シタル者ヲモ包含スルガ如ク疑フ者アラン然レモ自己ノ氏名
ヲ詐稱スルハ到底能ハザルノ業ナルヲ以テ他人ノ氏名ヲ詐稱スルコトヲ意味シタルモノ
ト解セザルベカラズ何トナレバ例ヘバ鎮西八郎ナル選舉人アリ自ラ稱シテ曰ク自己ハ鎮
西八郎ニ非ズ鎮西九郎ナリト而シテ鎮西九郎ナル者全ク在ラザルトキハ其偽稱ナル鎮西
九郎ハ選舉人名簿ニ之レナキヲ以テ投票ヲ爲シ得ルノ幸機ニ接セザルベシ即チ自己ノ氏
名ヲ詐稱スルハ事實上ノ不能ナリ之ニ反シ鎮西八郎ガ若シ源義朝ナリト詐稱シタルトキ
ハ源義朝ハ現在スル選舉權者ナルヲ以テ氏名詐稱ノ目的ヲ達シ投票ヲモ爲シ得ベケン之
レ一面ヨリ云ヘバ自己ノ氏名ヲ詐稱スルモノナレモ他面ヨリ觀レバ自己ノ氏名ヲ詐稱ス
ルハ即チ他人ノ氏名ヲ詐稱スルモノト云フモ不可ナシカレバ本條ノ氏名ヲ詐稱スルトソ
ルハ他人ノ氏名ヲ詐稱スルト謂ハザルベカラズ

第九十九條 立會人正當ノ事故ナクシテ本法ニ定メタル義務ヲ欠クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

註疏 本法上ノ立會人トハ投票立會人、開票立會人、選舉立會人ヲ稱ス此等ノ立會人ハ投票管理者、開票管理者、選舉長ニ於テ選舉人中ヨリ之ヲ選任スルモノナリ然ルニ其選任セラレタル立會人正當ノ事故ナクシテ投票、開票、選舉會ニ立會ハザルトキハ義務ヲ缺クモノトシ本條ノ制裁ヲ受クルニ至ルナリ

第一百條 第九十二條第二項第九十三條及第九十四條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其ノ携帶シタル物件ヲ沒收ス

註疏 本條ハ犯罪者ノ携帶シタル銃砲、槍戟、刀劍、竹槍、棍棒其他ノ兇器ヲ沒收スルトノコトヲ定メタルナリ

第一百一條 當選人其ノ選舉ニ關シ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

註疏 其ノ選舉ニ於テ當選スルモ本法ニ定メタル選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ヲ以テ正當ナリト目スベカラズ故ニ本條ニ其當選ヲ無効ト爲ス所以ナリ

第一百二條 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタルモノハ裁判所ノ

宣告ヲ以テ刑期後仍二年以上八年以下選舉人及被選舉人タルコトヲ禁ス

註疏 夫レ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑期間公權ヲ停止セラレ、ルハ刑法ノ規定スル所ナリ又メ監視ニ附セラレタル者ハ監視中亦然リ然レモ本條ハ此ノ公權停止ノ外別ニ公權中選舉權被選舉權ノ停止ヲ命ズルモノニシテ本刑期ノ長短ニ關セザルナリ

本條ノ選舉權被選舉權ノ停止ハ刑期後二年以上八年以下ノ範圍ニ於テ宣告セラレ、モノトス

第一百三條 本法ニ依リ處罰スヘキ犯罪ハ六箇月ヲ以テ時効ニ罹ル

註疏 本條ハ該選舉法ニ於テ罰スベキ犯罪ノ公訴ノ時効ヲ定メタルナリ故ニ犯罪ノ成立ヨリ六ヶ月ヲ過グルモ公訴ノ提起ナキトキハ最早ヤ其犯罪者ヲ罰スルコトヲ得ズ

第十二章 補則

第一百四條 選舉ニ關スル費用ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

註疏 選舉ニ關スル費用ハ勅令ヲ以テ定メラル、モノトス

第一百五條 選舉ニ關スル訴訟ニ付テハ裁判所ハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラ

補則

ス速ニ其ノ裁判ヲ爲ヘスシ

註疏 選舉訴訟當選訴訟ノ如キハ國民ノ參政權ヲ實行スルニ原因シ其訴訟ノ徒ラニ遷延スルニ於テハ爲メニ國家ノ立法機關ノ完全ヲ缺クニ至ル之レ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラズ其裁判ヲ急速ニ爲サシムル所以ナリ

第六百六條

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法ニ規定シタル 町村長ノ職務ハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ掌ル

島司ヲ置ケル島嶼ニ於テハ本法ニ規定シタル 郡長ノ職務ハ島司之ヲ掌リ其島司ヲキモノニ於テハ郡長ニ準スヘキ者之ヲ掌ル

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ本法中市トアルハ區、市長トアルハ區長、市役所トアルハ區役所ニ該當ス

註疏 町村制ヲ施行セザル地トハ北海道沖繩縣ノ如キ是ナリ此等ノ地ハ依然戸長ノ存スルアリテ未ダ町、村長ヲ置カズ故ニ本法ニ於テ定メタル町村長ノ取扱フベキ職務ハ其戸長又ハ之ニ準ズル職ニアル者取扱フベキモノトス

島司ヲ於ケル島嶼トハ鹿兒島縣ニ於ケル大島長崎縣ニ於ケル壹岐、對馬新瀉縣ニ於ケル佐渡ノ如シ此等ノ諸島ニ於テハ本法ニ規定シタル郡長ノ職務ハ島司ノ取扱フベキ者トス

東京、京都、大阪、ノ三市ハ大市ニシテ市内ヲ分テ數區ト爲シ各區々長ヲ置キ市ノ事務ヲ擔任セシムルガ故ニ此三市ニ於テハ本法中ニ市トアルハ區、市長トアルハ區長、市役所トアルハ區役所ニ於テ取扱フモノト知ルベシ

第六百七條

立會人指定ノ時刻ニ至リ參會セサルトキ又ハ參會シタルモ中途ヨリ定數ヲ缺キタルトキハ投票管理者、開票管理者、選舉長ハ臨時ニ選舉人ノ中ヨリ立會人ヲ選任スヘシ

註疏 本條ハ立會人が參會セザルトキ若クハ參會スルモ中途ヨリ定數ヲ缺キタルトキハ臨時ニ選舉人中ヨリ立會人ヲ選任スベキコトヲ定メタルナリ蓋シ立會人タル義務ヲ盡サザル者ヲ罰スルノ制裁アリト雖モ絶對的ニ其義務ヲ盡サザル者ヲ如何トモスベカラズ故ニ他人ヲ以テ更ニ立會人ニ選任スルノ外ナシ之レ本條ノ規定アル所以ナリ

第六百八條

選舉人名簿ニ關スル訴訟選舉訴訟及當選訴訟ニ付テハ本法ニ規定シタルモノヲ除クノ外總テ民事訴訟ノ例ニ依ル

註疏 本條ニ定メラレタル三訴訟ニ付テハ本法ニ規定アルモノヲ除クノ外ハ通常民事ノ訴訟手續ニ依ルベキモノトス故ニ訴ノ提起ハ民事ノ訴訟ト同様訴訟狀ヲ作り之ヲ差出シ被告ハ之ニ對スル答辯書ヲ差出シ期日ニ口頭辯論ヲ爲シ以テ判決ヲ受クルニ至ルノ順序被

我相異ルコトナシ

第九條 本法ニ於ケル直接國稅ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

註疏 本法上ニ於テ直接國稅ト謂ヘルハ何々ナリヤノ種類ハ勅令ヲ以テ定ムラルベキモノトス

第十條 北海道及沖繩縣ニ於テ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テ

ハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

註疏 北海道沖繩縣ノ如キハ人文ノ進歩他ノ府縣ト同一ニ論ズベカラザルモノアリ故ニ舊選舉法時代ニ於テハ此等ノ地方ヨリ議員ヲ選出スルノ規定ナカリシモ本法ノ改正ト共ニ此等ノ地方ヨリモ若干ノ議員ヲ選出スルコト、ナリシナリ然レモ又々事項ニ依リ本法ノ規定ヲ適用シ難キモノアリ此等ハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケ之ニ據ラシムルコトヲ得セシメタリ

第十三章 附則

第十一條 本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス但北海道札幌區、函館區、小樽區ヲ除ク、沖繩

縣ニ於テハ勅令ヲ以テ別ニ施行ノ期日ヲ定ム

註疏 本條ハ該選舉法ノ施行期日ヲ定メタルナリ一般ヨリ云ハ次期ノ總選舉ヨリ施行セラル、ト雖モ北海道ノ内ニ於テ札幌函館小樽ヲ除クノ外ノ地及ビ沖繩縣ノ如キハ勅令ニテ別ニ施行期日ヲ定メラル、ガ故ニ次期ノ總選舉ヨリ施行セラル、コトナシ

第十二條 本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付必要ナル選舉人名簿ノ調製ニ限リ第十八條乃至第二十條第二十四條第二十六條第二十七條ノ期日及期間ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ選舉人名簿ハ次年ノ選舉人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

註疏 本條ハ初テ議員ヲ選舉スルニ付必要ナル選舉人名簿ノ調製ニ限リ本法ニ定メタル期日及期間ニ從フノ困難アルベキヲ察シ勅令ヲ以テ別ニ定ムルコトヲ得ト規定シタリ蓋シ其但書ヲ設ケタルハ本法ノ期日期間ヲ守ラザルニ由リテ選舉人名簿ノ效力ヲ疑フ者アリシコトヲ恐レ次年ノ選舉人名簿確定ノ日迄云々ト定メラレタルニアリ

別表

東京府	十一人	京都府	三人
東京市	十一人	京都市	三人
郡部	五人	郡部	五人

別表

大阪府

大阪府	六人
堺市	一人
郡部	六人
神奈川縣	
横濱市	一人
郡部	六人
兵庫縣	
神戸市	二人
姫路市	一人
郡部	十一人
長崎縣	
長崎市	一人
郡部	六人
對馬	一人

新潟縣

新潟縣	
新潟市	一人
郡部	十三人
埼玉縣	
群馬縣	九人
前橋市	一人
郡部	六人
千葉縣	
茨城縣	
水戸市	一人
郡部	九人
栃木縣	
宇都宮市	一人
郡部	六人
奈良縣	

奈良市

郡部

三重縣

津市

四日市市

愛知縣

名古屋市

郡部

靜岡縣

靜岡市

郡部

山梨縣

甲府市

郡部

別表

奈良市	一人
郡部	四人
津市	一人
四日市市	七人
名古屋市	二人
郡部	十一人
靜岡市	一人
郡部	九人
甲府市	一人
郡部	四人

滋賀縣

大津市

郡部

岐阜縣

岐阜市

郡部

長野縣

長野市

郡部

宮城縣

仙臺市

郡部

福島縣

巖手縣

盛岡市

大津市	一人
郡部	五人
岐阜市	一人
郡部	七人
長野市	一人
郡部	九人
仙臺市	一人
郡部	六人
巖手縣	八人
盛岡市	一人

青森縣	郡部	五人
弘前市		一人
青森市	郡部	四人
山形縣		
山形市		一人
米澤市		一人
郡部		六人
秋田縣		
秋田市		六人
福井縣		
福井市		一人
郡部		四人
石川縣		
金澤市		一人

富山縣	郡部	五人
富山市		一人
高岡市		一人
郡部		五人
鳥取縣		
鳥取市		三人
島根縣		
松江市		一人
郡部		五人
隱岐		一人
岡山縣		
岡山市		一人
郡部		八人
廣島縣		
廣島市		一人

尾道市	郡部	十人
山口縣		
赤間關市		一人
郡部		七人
和歌山縣		
和歌山市		一人
郡部		五人
德島縣		
德島市		一人
郡部		五人
香川縣		
高松市		一人
丸龜市	郡部	五人

愛媛縣		
松山市		一人
郡部		七人
高知縣		
高知市		一人
郡部		五人
福岡縣		
福岡市		一人
久留米市		一人
門司市		一人
郡部		十人
大分縣		
佐賀縣		
佐賀市		一人
郡部		五人
熊本縣		

熊本市	一人
郡部	八人
宮崎縣	四人
鹿兒島縣	
鹿兒島市	一人
郡部	七人
大島	一人
北海道廳	
札幌區	一人
函館區	一人
小樽區	一人

札幌、小樽、 岩内、増毛、 宗谷、上川、 空知、室蘭、 浦河各支廳 管内	一人
函館、松前、 檜山、森部、 各支廳管内	一人
根室、釧路、 河野、網走、 各支廳管内	一人
（根室支廳管内千島ニ 屬スル諸郡ヲ除ク）	
沖繩縣	
那覇區	二人
首里區	
島尻郡	
中頭郡	
國頭郡	

改正衆議院議員選舉法釋義終

明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選舉法施行令（勅令第百八十六號）
（明治三十四年十月三日）

- 第一條 衆議院議員選舉法第二條ニ依リ市町村ニ於テ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設ケルコトヲ要スルトキハ地方長官之ヲ定メ管内ニ告示スヘシ
- 第二條 二箇以上ノ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル
- 一 選舉人名簿ハ每投票區各別ニ之ヲ調製スヘシ
 - 二 各投票區ニ於ケル投票管理者ハ市ニ在リテハ地方長官、町村ニ在リテハ郡長ニ於テ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ指名ス此ノ場合ニ於テハ投票管理者ノ内一名ハ市町村長、市町村長故障アルトキハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ要ス
 - 三 市町村長ハ選舉前選舉人名簿ヲ各投票管理者ニ送付スヘシ
 - 四 投票ヲ終リタルトキハ市ノ投票管理者ハ一名又ハ數名ノ投票立會人ト共ニ遲滯ナク投票函、投票録及選舉人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘシ
 - 五 市ノ開票所ニ於テハ投票函ノ總テ到達スルニ非サレバ之ヲ開クコトヲ得ス
- 第三條 數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル
- 一 投票管理者ハ郡長ニ於テ關係町村長、町村長故障アルトキハ其ノ職務ヲ行フ者ノ中ニ

就キ之ヲ指名ス

二 町村長ハ選舉前選舉人名簿ヲ投票管理者ニ送付スヘシ

第四條 選舉人ノ年齢ハ選舉人名簿調製ノ期日ニ依リ被選舉人ノ年齢ハ選舉ノ期日ニ依リ之ヲ算定ス

第五條 郡市町村ノ境界變更アリタル爲選舉人名簿ニ異動ヲ生シタルトキハ郡市長ニ在リテハ其ノ管理ニ屬スル選舉人名簿中異動ニ係ル部分ヲ新ニ屬シタル郡市ノ郡市長ニ送付シ町村長ニ在リテハ其ノ管理ニ屬スル選舉人名簿中異動ニ係ル部分ヲ新ニ屬シタル町村ノ町村長ニ送付シ同時ニ其ノ旨ヲ郡長ニ報告スヘシ

町村長ニ於テ選舉人名簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ郡長ニ報告スヘシ
市町村ノ廢置分合アリタル爲選舉人名簿ノ引繼ヲ要スルトキハ本條ノ例ニ依ル

第六條 前條ニ依リ郡長ニ於テ市長ヨリ選舉人名簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ副本ヲ調製シ關係町村長ニ送付スヘシ

第七條 選舉人名簿縦覽ノ場所ハ郡長及市町村長ニ於テ縦覽期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ告示スヘシ

第八條 選舉人名簿其ノ他選舉ニ關スル書類ハ使用ノ時期ヲ經過スルモ選舉若ハ當選ノ效力確定セサル間ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス
市町村ニ於テ二箇以上ノ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ投票管理者ノ保存スヘキ書類ハ市町村長ニ於テ前項ノ例ニ依リ之ヲ保存スルコトヲ要ス

第九條 郡市長ニ於テ投票立會人ヲ選任シタルトキハ同時ニ其ノ住所氏名ヲ投票管理者ニ通知スヘシ

第十條 投票管理者ニ於テ必要アリト認ムルトキハ投票所入場券及到着番號札ヲ選舉人ニ交付スルコトヲ得

第十一條 投票記載ノ場所ハ選舉人ヲシテ他ノ選舉人ノ投票ヲ覗ヒ又ハ投票ノ交換其ノ他不正ノ手段ヲ用ウルコト能ハサラシムル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第十二條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ各別ニ鎖鑰ヲ設クヘシ

第十三條 投票管理者ハ投票ヲ爲サシムルニ先テ投票所ニ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後内蓋ヲ鎖スヘシ

第十四條 投票用紙ハ投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選舉人ヲシテ其ノ住所氏名ヲ自稱セシメ選舉人名簿ニ對照シ且ツ投票簿ニ捺印セシメタル後之ヲ交付スヘシ

第十五條 選舉人誤テ投票ノ用紙又ハ封筒ヲ汚損シタルトキハ其ノ引換ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 投票ハ投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選舉人自ラ之ヲ投函スヘシ

第十七條 投票ヲ爲サムトスル選舉人ヲシテ本人ナル旨ノ宣言ヲ爲サシムル必要アルトキハ投票管理者ハ投票立會人ノ面前ニ於テ之ヲ宣言セシメ投票所ノ事務ニ従事スル者ヲシテ之ヲ筆記セシメ選舉人ニ讀聞カセ選舉人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

前項ノ宣言書ハ之ヲ投票録ニ添附スヘシ

第十八條 選舉人ニシテ投票前投票所外ニ退出シ又ハ退出ヲ命セラレタルトキハ投票管理者

ハ投票用紙ヲ取上ケ其ノ旨ヲ投票簿ニ記入スヘシ

第十九條 投票所外ニ退出セシメラレタル選舉人ニシテ投票ヲ爲サムトスル者アルトキハ投票管理者ハ投票所ノ入口ヲ鎖スニ先チ入場ヲ許スヘシ

第二十條 投票ヲ終リタルトキハ投票管理者ハ投票函ノ内蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シ其ノ内蓋

ノ鑰ハ投票函ヲ送致スヘキ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ投票管理者之ヲ保管スヘシ

第二十一條 衆議院議員選舉法第四十四條ニ依リ選舉長ニ於テ更ニ投票期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ郡市長ニ通知スヘシ

郡市長ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ更ニ衆議院議員選舉法第三十二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 地方長官ニ於テ開票立會人ヲ選任シタルトキハ同時ニ其住所氏名ヲ開票ノ管理者ニ通知スヘシ

第二十三條 投票ヲ點檢スルトキハ開票管理者又ハ選舉事務ニ従事スル者ニ於テ毎票記載ノ氏名ヲ朗讀シ選舉事務ニ従事スル者ニ名ヲシテ各別ニ同一被選舉人ノ得票ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

第二十四條 投票ノ點檢ヲ終リタルトキハ開票管理者ハ各被選舉人ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第二十五條 開票管理者ハ點檢済ニ係ル投票ノ有效無效ヲ區別シ開票立會人ト共ニ封印ノ上之ヲ保存スヘシ

不受理ノ決定アリタル投票ハ其ノ封筒ト共ニ前項ノ例ニ依リ之ヲ保存スヘシ

第二十六條 開票管理者衆議院議員選舉法第六十一條ノ報告ヲ爲ストキハ開票録ノ謄本ヲ添附シ併セテ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ報告スヘシ

前項ノ報告ヲ爲シタルトキハ開票管理者ハ各投票管理者ヨリ送付シタル選舉人名簿ヲ關係町村長ニ返付スヘシ

第二十七條 選舉長ニ於テ開票管理者ノ報告書ヲ調査スルトキハ毎開票區得票者ノ氏名及其ノ得票數ヲ朗讀シ終ニ各得票者ノ得票總數ヲ朗讀スヘシ

第二十八條 衆議院議員選舉法第六十二條ニ依リ選舉長ニ於テ開票期日ヲ定メタルトキハ地方長官ハ更ニ同法第五十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十九條 選舉人名簿、投票簿、投票ノ用紙及封筒並投票函ノ調製ニ要スル費用ハ府縣費及北海道地方費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三十條 選舉長、開票管理者又ハ投票管理者ニ於テ選舉事務ノ爲要スル費用及選舉會場、開票所又ハ投票所ニ要スル費用ハ當該行政廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三十一條 數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ町村費ヲ以テ支辨スヘキ費用ハ之ヲ各町村ニ平分スヘシ

第三十二條 投票立會人、開票立會人及選舉立會人ニハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ職務ノ爲要スル費用ヲ給スルコトヲ得

前項ノ費用ハ府縣費及北海道地方費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三十三條 衆議院議員選舉法ニ於ケル直接國稅ノ種類左ノ如シ

- 一 地租
- 二 所得稅 所得稅法第三條第一項第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク
- 三 營業稅

第三十四條 衆議院議員選舉法第一條ノ別表ニ於テ獨立ノ選舉區ト爲シタルモノヲ除クノ外市ハ從前屬シタル選舉區ニ包含スルモノトス

第三十五條 郡市ノ區域ニ屬セサル島嶼ニ於テハ開票區ハ島ノ區域ニ依ル

第三十六條 開票管理者、投票管理者及其ノ代理者故障アルトキハ上級官廳ハ臨時ニ官吏又ハ吏員ヲシテ其ノ事務ヲ管掌セシムルコトヲ得

第三十七條 衆議院議員選舉法第三條及第百六條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

第三十八條 北海道ノ札幌區、函館區及小樽區ニ於テハ衆議院議員選舉法其ノ他之ニ關スル法令中市トアルハ區、市長トアルハ區長、市役所トアルハ區役所ニ該當ス

改正衆議院議員選舉法釋義終

2300
31

40727



天佑ヲ享有シタル我が日本帝國ノ寶祚ハ萬世一系歷代繼承シ以テ朕カ躬ニ至ル惟フニ祖宗肇國ノ初大憲一タヒ定マリ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徴ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ朕カ後嗣及子孫ヲシテ遵守スル所アラシム

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

皇室典範

第一章 皇位繼承

第一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男統ノ男子之ヲ繼承

ス

第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ

第六條 皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ

第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條 皇嗣精神若クハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ

順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク

第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章 成年立后立太子

第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲

嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公

布ス

第四章 敬稱

第十七條 天皇太皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王

王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久シキニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサル

トキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫アラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサル

トキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一 親王及王

第二 皇后

第三 皇太后

第四 太皇太后

第五 内親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ

其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ

限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ

事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族

成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖モ皇太子及皇太孫ニ對

スルノ外其任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ

又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其

ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第六章 太傅

第二十六條 天皇未ダ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ撰任ス

第二十八條 太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第七章 皇族

第二十條 皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王妃親王妃内親王王妃女王ヲ謂フ

第二十一條 皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女王内親王

トシ五世以下ハ男ヲ女王女王トス

第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姊妹ノ女王タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三十四條 皇統譜及前條ニ關ル記録ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條 皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官寮ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ撰舉セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅撰スヘシ

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレ

タル華族ニ限ル

第四十條 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ副書ス

第四十二條 皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 皇族國疆ノ外ニ旅行セントスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章 世傳御料

第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス

第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條 皇室經費ノ豫算決算検査及其他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及懲戒

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セス

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス

第五十二條 皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若クハ對奪スヘシ

第五十三條 皇族蕩産ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任ヌヘシ

第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章 皇族會議

第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム

第十二章 補則

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊

舊ニ依ル

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

第五十九條 親王内親王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條 親王ノ家格及其ノ他此典範ニ抵觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條 皇族ノ財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六十二條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

明治三十九年六月廿一日第四版印刷
明治三十九年六月廿七日第四版發行

著者 磯部 四郎

憲法講義

著作權

登錄濟

定價金八十錢

發行者 青木恒三郎

印刷所 高山堂印刷部

發行所 大阪市東區心齋橋筋博勞町角

青木高山堂

電話東京三五〇番

發行所 青木高山堂

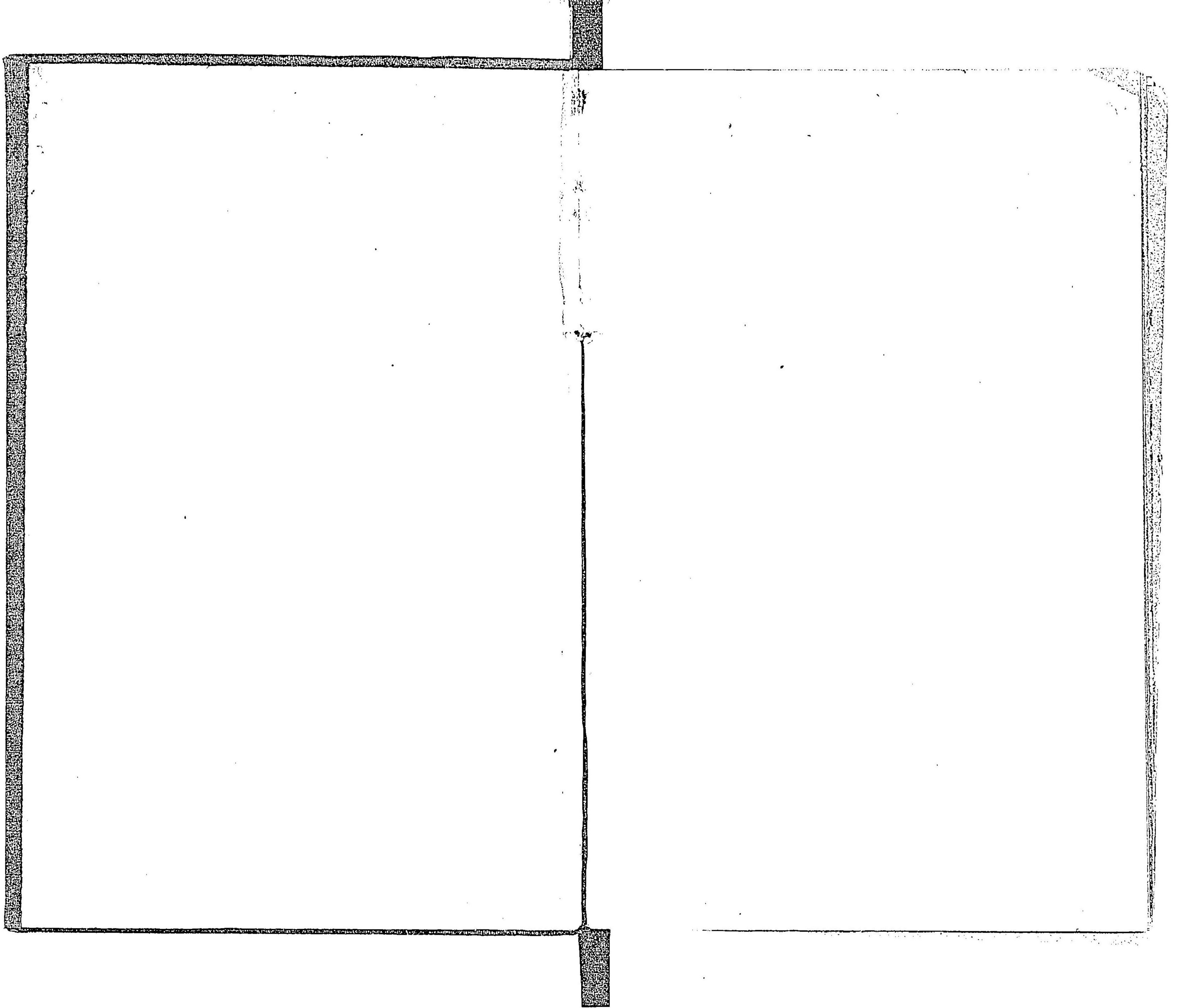
電話東京本局七八九番

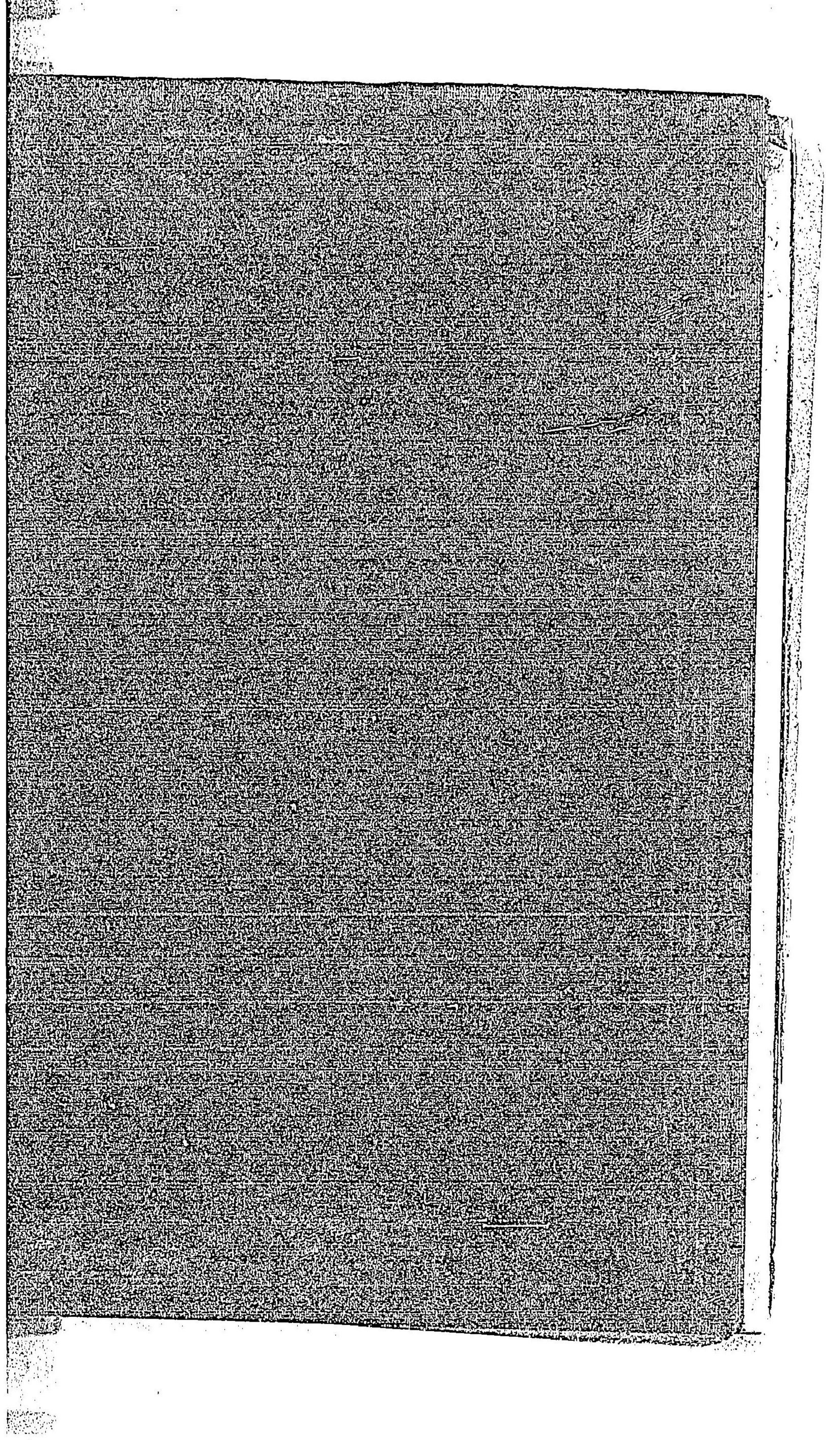
東京市日本區橋通二丁目拾七番地

大阪市四區新町北通一丁目六十五番屋敷

大阪市東區心齋橋筋博勞町角

東京市日本橋區通壹丁目角





031492-000-0

特70-160

憲法講義

磯部 四郎/述

M39

BBE-0091

